



向上と進展



あけましておめでとうございます

会長 松本 正之

[発行所] 公益社団法人 日本学生陸上競技連合
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

皆様には、お元気で新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃は、公益社団法人日本学生陸上競技連合に対し、格別のご理解とご協力をいただきありがとうございます。

今年には私ども日本学生陸上競技連合にとって重要な競技として位置づけている、第30回ユニバーシアード競技会(7月/ナポリ)、また第17回世界陸上競技選手権大会(9月/ドーハ)が開催される年です。2020年東京オリンピックを翌年に控え、学生競技者にとっては気持ち引き締まる1年になるのではないのでしょうか。

昨年を振り返りますと、4月に行われた世界大学クロスカントリー(スイス)で男子団体銀メダル、女子団体金メダル、女子個人で銀メダル、そして男女混合で金メダルを獲得と素晴らしい成績を残しました。

6月の日本学生陸上競技個人選手権大会(平塚市)で、15個の大会新記録が誕生し、7月の第58回実業団・学生対抗陸上競技大会(平塚市)では、男女混合4×400mリレーが東京オリンピックに先駆けて初めて実施されました。

そして9月の日本インカレ(川崎市)では、女子4×100mリレーで日本体育大学が12年ぶりの日本学生新記録を樹立するなど6つの大会新記録・タイ記録が生まれて大いに盛り上がりを見せ、対校戦では男子は日本大学が7年連続21回目の総合優勝、女子は筑

波大学が4年ぶり25回目の総合優勝を飾りました。

駅伝シーズンに入り、10月の第30回出雲大学選抜駅伝競走大会では、青山学院大学が2年ぶり3回目の優勝を果たし、「杜の都仙台」で行われた第36回全日本大学女子駅伝では、名城大学が2年連続3度目の優勝を果たしました。11月の伊勢路で開催された第50回全日本大学対校駅伝では、中継所が変更となり、レースとしては大きな盛り上がりを見せた中で、青山学院大学が2年ぶり2度目の優勝を果たしました。

なお、30年度内事業としては3月に男女のハーフマラソン選手権大会(男子：立川市、女子：松江市)と第13回日本学生20km競歩選手権大会が控えております。

平成31年度はユニバーシアードと世界選手権があり、また9月には天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対校選手権大会が岐阜市の岐阜メモリアルセンター長良川競技場において、東海学生陸上競技連盟、一般財団法人岐阜陸上競技協会の協力を得て開催されます。加えて、2020年の東京オリンピックも間近に迫り、学生陸上に対する期待も益々大きくなるものと思います。そのためにも選手諸君の活躍を大いに期待します。

新年にあたり、本年も関係者の皆様にはなお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

公益社団法人 日本学生陸上競技連合 会報 第154号 (平成31年1月15日発行)

向上と進展

目次

新年のご挨拶	1
【海外派遣】	
7ヒルズ・ロードレース2018.....	3
【大会報告】	
第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走.....	6
第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会.....	9
秩父宮賜杯第50回全日本大学駅伝対校選手権大会.....	12
2018全日本大学女子選抜駅伝競走.....	16
【計画発表】	
東京マラソン2019 準エリートの部への選手の推薦について	19
【会議報告】	
第36回理事会 議事録	20
平成30年 学生役員会議	36
【報告等】	
平成30年日本学生新記録章贈呈式を開催.....	38
鉄剤の注射について.....	39
総務委員会・強化委員会より.....	40
【告知】	
平成30年度 第64回指導者会議開催要項	41
普通会員数報告.....	42
賛助会員募集／入会報告／編集後記.....	43

【海外遠征報告】

7ヒルズ・ロードレース 2018

Zevenheuvelenloop 2018

Nijmegen-Netherlands

報告者 米田 勝朗 (名城大学)

1. 大会名：7ヒルズ・ロードレース
2. 大会期日：2018年11月18日(日)
13:00 スタート(現地時間)
3. 派遣期間：2018年11月14日(水)～20日(火)
6泊7日(機内1泊)
4. 場所：オランダ ナイメーヘン
5. 派遣種目：15km
6. 派遣選手(男子2名、女子4名)
男 子：吉田祐也(青山学院大学3年)
橋本龍一(順天堂大学3年)
女 子：加世田梨花(名城大学2年)
上田雪菜(筑波大学3年)
須藤ひかる(東北福祉大学2年)
小汲紋加(玉川大学2年)

7. 派遣スタッフ

チームリーダー：山下 誠(日本学連理事/玉川大学)
総務兼コーチ：米田勝朗(日本学連強化委員/名城大学)
代理人：柳原 元(インプレスランニング)
マネージャー：蔵並 香(日本学連幹事長/東洋大学)

8. 派遣目的と派遣選手選考について

昨年度に引き続き、ユニバーシアード競技大会ハーフマラソンの強化対策として、ヨーロッパでのロードレースに選手を派遣することとなった。海外遠征を通して国際感覚を身につけ、レベルの高い競技会に出場することで、学生の力を試すことに重点を置いたものである。

派遣選手の選考は、第21回日本学生ハーフマラソン選手権大会、第87回日本学生陸上競技対校選手権大会男女10000mの結果から行われた。なお、ユニバーシアードの強化対策であることから、3年生以下を選考対象とした。

9. 派遣大会について

昨年度と同様、オランダ、ナイメーヘン市で行われる15kmのロードレースが派遣大会とされた。この大会は出場者が40,000人という大規模な大会で、エリートランナーも数多く出場し、かなりレベルの高い



海外レースで貴重な経験を積んだ選手たち

レースであった。コースについては大会名からもわかる通り、7つの丘を越える設定で、かなりタフなものとなっていた。単純に速さだけではなく、上り、下りをしっかり走れるかという強さも求められるコースであった。

10. 大会結果

【男子】

氏名	所属	順位	記録
J.Cheptegei	ウガンダ	1位	41分05秒 (世界最高)
A.Osman	エリトリア	2位	42分34秒
M.Edris	エリトリア	3位	42分55秒
吉田 祐也	青山学院大学	10位	44分31秒
橋本 龍一	順天堂大学	13位	44分58秒

【女子】

氏名	所属	順位	記録
S.Chesang	ウガンダ	1位	47分19秒
E.Chirchir	ケニア	2位	47分35秒
S.Krumins	オランダ	3位	47分41秒
加世田 梨花	名城大学	7位	49分30秒
上田 雪菜	筑波大学	8位	50分13秒
須藤 ひかる	東北福祉大学	11位	51分24秒
小汲 紋加	玉川大学	13位	52分37秒

11. 大会の総括

この時期にしては珍しく快晴で、風も弱く、ここ数年の中ではたいへん良いコンディションであった。今

年も多くのエリートランナーが出場し、レベルの高い大会であった。

男子はハイペースでレースが展開された。先頭集団は最初の5 kmを14分07秒で通過。学生では吉田、橋本がともに14分56秒で通過した。レース中盤は厳しいアップダウンが連続するが、先頭集団から1人抜け出したウガンダの選手は10kmを27分49秒で通過した。学生の10km通過は吉田が29分49秒、橋本が29分57秒であった。最終的なゴールタイムは大会結果の通りである。優勝したウガンダの選手は2連覇で、世界最高記録を更新する圧巻の走りであった。学生では吉田、橋本ともに後半も粘り強く走り、44分台でのゴールタイムであった。

女子も男子同様、世界選手権等の代表経験のあるウガンダ、ケニアの選手が出場していた。コンディションも良かったからか、前半からかなりのハイペースとなった。学生の中では加世田が積極的な走りをした。先頭集団は最初の5 kmを16分01秒で通過し、加

世田は16分26秒であった。他の3選手は16分44秒～17分30秒の通過であった。10kmは先頭の選手が31分47秒に対し、加世田が33分07秒、上田が33分34秒であった。ラスト5 kmも上位の3選手のペースは落ちることなく、圧倒的な強さをみせた。上位3選手のゴールタイムは47分台であった。加世田もラスト5 kmをしっかりと走り、49分30秒でゴールした。このタイムはこれまでこの大会を走った日本の女子選手の最高タイムであった。他の3選手も後半まで粘り強く走り、昨年度以上の好タイムであった。

直前に男子2名が、故障と体調不良で遠征を辞退したのは残念であったが、参加した6名の学生達はいろいろなことを学ぶことができた有意義な遠征であったと思う。今回の遠征が、学生長距離界の競技力向上につながり、さらにはユニバーシアード競技大会でのメダル獲得につながっていくことを期待したい。

以下、選手たちのコメントを紹介して本大会の報告と致します。

選手たちのコメント

吉田祐也 (青山学院大学)

今回のオランダ遠征では、帯同してくださった先生方のマネジメント、サポートのご尽力があって、日本国内では経験できない、さまざまなことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。とりわけ、セブンヒルズ15kmでは、肩を並べて走ることはできなかったものの、海外のトップクラスの選手と同一のレースを走るという今後の競技生活においても非常に貴重な経験をすることができました。

今回の遠征は、あくまで今後の競技生活に生かし、また来年度のイタリアでのユニバーシアードに向けての強化の一環であるということをお忘れずに、これを糧にして今後も競技に取り組んでいきたいと考えています。今回の遠征をするにあたって、様々な面でサポートしてくださった先生方、蔵並さん、本当にありがとうございました。重ねてお礼申し上げます。

橋本龍一 (順天堂大学)

海外でのレースは人生で初めてであったが、路面の違いや招集からスタートまでの流れなど、日本との違いに驚いた。スタート直後からハイペースで、今回優勝したCheptegei選手について走ることはできず、世界トップレベルとの差を実感した。しかし、トップクラスの選手と同じスタートラインに立てたことは、貴重な経験となった。これからは、長い距離を走る中でいかに動きを崩さずにスピードを出した走りができるかがポイントとなり、レベティシヨントレーニングや動きづくりなど走りのフォー

ムを効率よくしていく必要がある。また、前半は向かい風や寒さの影響で思うように身体が動かせなかった。日本の招集と異なり、ウォーミングアップが終わり、スタートするまでの時間がかなり空いていたためである。今回のような気温が非常に低い中でのレースでは、スタートまでに身体をできるだけ冷やさないような工夫が必要だと感じた。

今回、海外レースを経験したことで、また海外でのレースや国際大会を目指したいという大きな目標となった。来年度、イタリア・ナポリで開催されるユニバーシアード等の世界大会に選ばれるように、さらに精進していきたい。

加世田梨花 (名城大学)

私は昨年度に引き続き、2年連続のこの大会への出場となりました。順位としては昨年度と同様の7位という結果でしたが、記録としては昨年度の記録を大幅に更新することができ、この1年の成長を感じることができました。ですが、中盤の粘りや挑戦する気持ちがまだまだ私には足りていないと感じた試合でもありました。上位の選手の記録も昨年度よりレベルアップしており、今回感じた課題を克服して、次は上位の選手たちと勝負できる選手になりたいと思いました。

上田雪菜 (筑波大学)

今回、初の海外レースということで、緊張や不安な気持ちが大きかったです。特に現地での食事や練習環境に不安がありましたが、監督・コーチ、スタッフの皆様のサポートのお陰で、安心してレースに臨むことができました。

レース当日は海外選手を見て急に緊張感が押し寄せてきましたが、この貴重な経験が無駄にしないためにも、結果にこだわりすぎずレースを楽しむことを一番に意識していました。その結果、落ち着いて冷静に自分の走りができたと思っています。レース中盤まではアップダウンが激しかったため、自分のペースを守ることに集中していましたが、ラストの5 km以降はアップダウンがなくなったためレースを楽しむ余裕があり、笑顔でコースを駆け抜けることができました。

今までで一番楽しんで走れたレースとなり、充実感を得られましたが、課題も見つかりました。まずは海外選手との圧倒的な基礎能力の差です。スタート直後から先頭とは離され、1度も先頭集団でのレースを体感することができませんでした。2つ目の課題としては、下りの際にスピードに乗ることができなかつたことが挙げられます。下りを生かす走りができれば、大幅なタイム短縮につながると思うので、下りでの走り方改善に取り組もうと思います。最後に、レースを楽しむことを優先したがゆえに守りのペースに入ってしまう、積極性に欠けてしまったことが挙げられます。今後は冷静かつ大胆なレースを目指していきたいと考えています。

以上、良かった点も課題点もあった収穫の大きいレースとなり、本当に貴重な経験でした。今後の競技人生に必ず生かし、さらなるレベルアップにつなげていきます。本当にありがとうございました。

須藤ひかる (東北福祉大学)

今回、オランダでのセブンヒルズ15kmロードレースに日本代表として出場させていただき、初の海外レースとなりました。非常に緊張もあり、不安も多くありましたが、その1つひとつが貴重な経験となりました。大会の雰囲気は、今まで味わったことのないお祭りのようで、スタート前はとてもワクワクしました。観客も多く、走っている最中に名前を呼んでいただき、うれしさとともにパワーとなりました。レースに関しては悔しさがとても残りました。また、今後の自分の課題も見つかり、悔しさとともに成長するための一歩になったと思います。このレースで見つかった課題を1つずつつぶしていき、今後に控えている大会につなげていきたいと思っています。

1週間前からオランダに入り、同じ日本の学生と練習や調整を行っていく中で、他の学生からも多くの刺激を受けました。練習中の集中した雰囲気は気軽に話しかけられないような感覚でした。普段一緒に練習はしないメンバーであるため余計に緊張感があり、朝練習のジョグでさえも緊張をしました。その中で練習ができたのは、とても光栄のことと感じています。強い選手と練習を行い、学んだことや経験したことは、自分の大学のチームにも発信していきたいと思っています。また、練習以外は仲が良く、楽しい雰囲気与生活を共にできました。練習とそれ以外での切り替えは、とても大切だと感じました。この遠征に来るまで全員が初対面でしたが、とても仲良くなれたので、本当に良かったです。そして、サポートをくださった監督方や幹事長のお陰で、充実した遠征になりました。今回の遠征を経て、このように今、自分が陸上で



男子の日本人トップだった吉田祐也(青山学院大学)



女子の日本人トップだった加世田梨花(名城大学)

きているのも、たくさんの方々のお陰であると改めて感じる事ができました。周りの方々への感謝の心を忘れず、来年のユニバーシアードに出場し、結果を出せるよう練習に励んでいきたいと思っています。

小汲紋加(玉川大学)

今回、海外初のレースで、自分にとって大きな経験となりました。今までにない雰囲気や熱気の中でとても緊張しました。自分の走りとしては、スタートから海外の選手と大きく差がつけられ、力の差を感じました。また、上りでペースがかなり落ちてしまい予想以上に厳しい走りとなりました。しかし、ラスト3 kmの下りでペースを切り替えられたことは、良かったところだと思います。

海外のレースで自分の力を出し切ることの難しさと、レベルの高さを痛感させられました。この経験を生かして、今後海外レースで結果が残せるくらいの強い選手になれるよう一層努力していきます。今回はこのような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。また、現地ではスタッフの皆様大変お世話になり、無事海外レースを終えることができました。心よりお礼申し上げます。

【大会報告】

第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走

副幹事長 宮崎 芽衣

1. 大会名：第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走
2. 大会期日：2018年10月8日（月・祝）
3. 場所：鳥根・出雲市
出雲大社正面鳥居前～出雲ドーム前
4. エントリー数：18校・東北学連選抜チーム
・北信越学連選抜チーム
・米国アイビーリーグ選抜チーム

5. 大会総括

駅伝シーズンの幕開けとなる出雲全日本大学選抜駅伝競走が「体育の日」の10月8日（月）、鳥根県の出雲大社正面鳥居前から出雲ドーム前までの全6区間45.1kmで行われました。爽やかな秋晴れに恵まれ、全21チームが力強く出雲路を駆け抜けました。

前回大会で連覇を阻まれた青山学院大は、1区の橋詰大慧選手と2区の鈴木壘人選手が区間賞の走りを見せる最高の滑り出しでした。3区で拓殖大がワークナー・デレセ選手が区間賞の走りを見せて2位に浮上しましたが、青山学院大はエース・森田歩希選手が区間2位にまとめて首位をがっちりキープ。4区で吉田圭太選手が力強い走りですさらにリードを広げました。終盤は東洋大が5区の今西駿介選手、6区の吉川洋次選手の連続区間賞で追いましたが、青山学院大は両区間でともに区間2位と盤石のレース運びで、2時間11分58秒で2年ぶり4回目の優勝を果たしました。終盤区間以外でも上位の走りを見せた東洋大が12秒差で2位に続き、前回覇者の東海大は2区の館澤亨次選手と4区の關颯人選手が区間2位の走りで見せて、3位に入りました。

このように無事、大会を開催することができましたのも、主催の出雲市、ご協賛の富士通株式会社、ご協力の出雲全日本大学選抜駅伝競走組織委員会をはじめ、多くの方々のご協力があることと深く感謝しています。来年度以降も素晴らしい大会が開催できますよう精進しますので、何卒よろしくお願いたします。



2年ぶり4度目の優勝を果たした青山学院大。2時間11分58秒で3年生アンカー・竹石尚人がフィニッシュ



青山学院大は1区（8.0km）の橋詰大慧（左）が2位に6秒差をつける23分15秒でトップ中継を果たすと、タスキを受けた2区（5.8km）の鈴木壘人も16分26秒で区間1位の力走。以降も1度も首位の座を譲らない「完封リレー」で出雲路を駆け抜けた



改めてその強さを見せつけた青山学院大のVメンバー。左端は原晋監督



2位でフィニッシュした東洋大のアンカー・吉川洋次。区間賞(29分53秒)の走りで青学大との差を27秒から一時は5秒差まで詰め寄ったが、7年ぶりVIにあと一步届かず



出雲大社正面鳥居前を13時05分にスタートした21チームの第1区走者たち。平成元年(1989年)に「平成記念出雲くにびき大学招待クロスカントリーリレーフェスティバル」として始まった今大会。平成の歩みとともに歴史を重ね、第30回の節目を迎えた



連覇を狙った東海大は3位にとどまる。1区の西川雄一郎(左)が6位とやや出遅れ、2区の1500mアジア大会代表・館澤亨次が4人抜きの方走を見せたが、優勝争いには絡めなかった



過去最高の4位に入賞した拓殖大。3区の主将、ワークナー・テレセが区間トップ(25分17秒)の力走でチームを牽引

祝・第30回を迎えた出雲駅伝

平成元年にスタートした出雲駅伝は、平成最後の年に30回記念大会を迎えた。祝賀パーティーなどは開催しなかったが、前日の開会式において、初回からご協賛いただいた富士通株式会社様、テレビ中継でご支援いただいた(株)フジテレビジョン様等、これまで大会を支えていただいた団体や個人に特別表彰を行った。



30回記念大会を迎えた出雲駅伝では開会式で大会をサポートした団体、個人に特別表彰が行われた



30回記念切手

第30回出雲全日本大学選抜駅伝 成績

2018年10月8日(祝・月) 島根・出雲大社正門鳥居前～出雲ドーム前 6区間45.1km
 上段=総合成績 下段=区間成績

チーム名	1区 (8.0km)	2区 (5.8km)	3区 (8.5km)	4区 (6.2km)	5区 (6.4km)	6区 (10.2km)	総合成績 (45.1km)
①青山学院大学	橋詰 大慧(4) (1) 23.15	鈴木 隼人(3) (1) 39.41 (1) 16.26	森田 歩希(4) (1) 1.05.02 (2) 25.21	吉田 圭太(2) (1) 1.23.02 (1) 18.00	生方 敦也(3) (1) 1.41.50 (2) 18.48	竹石 尚人(3) (1) 2.11.58 (2) 30.08	2.11.58
②東洋大学	相澤 晃(3) (2) 23.21	西山 和弥(2) (3) 40.15 (6) 16.54	山本 修二(4) (3) 1.05.38 (3) 25.23	小笹 椋(4) (2) 1.23.47 (4) 18.09	今西 駿介(3) (2) 1.42.17 (1) 18.30	吉川 洋次(2) (2) 2.12.10 (1) 29.53	2.12.10
③東海大学	西川雄一朗(3) (6) 23.35	館澤 亨次(3) (2) 40.04 (2) 16.29	中島 怜利(3) (4) 1.06.16 (12) 26.12	關 颯人(3) (4) 1.24.22 (2) 18.06	郡司 陽大(3) (3) 1.43.13 (3) 18.51	湯澤 舜(4) (3) 2.13.31 (4) 30.18	2.13.31
④拓殖大学	馬場 祐輔(4) (5) 23.34	碓野 魁星(4) (4) 40.21 (3) 16.47	W.デレセ(4) (2) 1.05.38 (1) 25.17	戸部 凌佑(4) (3) 1.24.11 (10) 18.33	吉原遼太郎(2) (4) 1.43.24 (8) 19.13	赤崎 暁(3) (4) 2.14.16 (9) 30.52	2.14.16
⑤帝京大学	遠藤 大地(1) (11) 24.00	横井 裕仁(4) (7) 40.51 (5) 16.51	岩佐 竜誠(3) (8) 1.06.39 (7) 25.48	谷村 龍生(2) (5) 1.24.51 (5) 18.12	星 岳(2) (5) 1.44.00 (6) 19.09	島貫 温太(3) (5) 2.15.02 (11) 31.02	2.15.02
⑥中央学院大学	川村 悠登(3) (4) 23.31	栗原 啓吾(1) (5) 40.34 (9) 17.03	高橋 翔也(2) (6) 1.06.31 (8) 25.57	吉田 光汰(1) (6) 1.24.51 (6) 18.20	青柳 達也(1) (6) 1.44.13 (10) 19.22	石綿 宏人(2) (6) 2.15.04 (8) 30.51	2.15.04
⑦立命館大学	辻村 公佑(4) (12) 24.01	高畑 祐樹(3) (8) 40.51 (4) 16.50	今井 崇人(3) (5) 1.06.29 (6) 25.38	原田 裕作(4) (7) 1.25.01 (9) 18.32	藤田 孝介(3) (10) 1.44.48 (12) 19.47	吉岡 遼人(2) (7) 2.15.07 (5) 30.19	2.15.07
⑧城西大学	荻久保寛也(3) (3) 23.28	西嶋 雄伸(3) (6) 40.37 (12) 17.09	鈴木 勝彦(4) (7) 1.06.38 (9) 26.01	中島 公平(4) (8) 1.25.09 (8) 18.31	山本 嵐(1) (8) 1.44.23 (9) 19.14	服部 潤哉(4) (8) 2.15.11 (7) 30.48	2.15.11
⑨日本体育大学	池田 耀平(2) (14) 24.11	宮崎 勇将(4) (11) 41.13 (7) 17.02	山口 和也(3) (13) 1.07.24 (11) 26.11	樫谷 賢(3) (10) 1.25.32 (3) 18.08	岩室 天輝(2) (9) 1.44.36 (5) 19.04	林田 元輝(4) (9) 2.15.31 (10) 30.55	2.15.31
⑩早稲田大学	半澤 黎斗(1) (19) 24.30	小澤 直人(4) (16) 41.39 (12) 17.09	中谷 雄飛(1) (11) 1.07.03 (4) 25.24	新迫 志希(3) (11) 1.25.38 (11) 18.35	太田 直希(1) (11) 1.44.48 (7) 19.10	清水 歓太(4) (10) 2.15.34 (6) 30.46	2.15.34
⑪米国アイビーリーグ選抜	J.マン (ブラウン大学) (8) 23.51	D.ネスター (コロンビア大学) (9) 40.53 (7) 17.02	K.ドニィー (エル大学) (12) 1.07.09 (13) 26.16	B.エイミスタッド (コーネル大学) (13) 1.26.18 (14) 19.09	J.ヘニングガー (ダートマス大学) (12) 1.45.46 (11) 19.28	M.マクドナルド (プリンストン大学) (11) 2.16.01 (3) 30.15	2.16.01
⑫法政大学	坂東 悠汰(4) (15) 24.14	岡原 仁志(3) (12) 41.22 (11) 17.08	大畑 和真(4) (9) 1.06.57 (5) 25.35	土井 大輔(4) (9) 1.25.18 (7) 18.21	坪井 慧(3) (7) 1.44.18 (4) 19.00	増田 蒼馬(3) (12) 2.16.14 (15) 31.56	2.16.14
⑬京都産業大学	上坂 優太(4) (7) 23.42	稲垣 雄二(2) (10) 40.55 (14) 17.13	西川 和希(4) (10) 1.06.59 (10) 26.04	市川 佳孝(2) (12) 1.25.48 (12) 18.49	宮下 朝光(3) (13) 1.46.14 (15) 20.26	日下 聖也(4) (13) 2.17.47 (13) 31.33	2.17.47
⑭皇學館大学	川瀬 翔太(2) (13) 24.10	上村 直也(2) (17) 41.49 (16) 17.39	平山 寛人(2) (14) 1.08.25 (14) 26.36	桑山 楓矢(2) (14) 1.27.18 (13) 18.53	山下 慧士(3) (14) 1.47.05 (12) 19.47	新美 健(3) (14) 2.18.55 (14) 31.50	2.18.55
⑮日本文理大学	北村 宙夢(4) (18) 24.30	山田 泰史(2) (14) 41.33 (9) 17.03	副島 将平(3) (15) 1.08.26 (16) 26.53	増田 晃大(3) (16) 1.28.16 (20) 19.50	森口 翔平(2) (15) 1.48.44 (16) 20.28	米倉 光祐(2) (15) 2.21.25 (20) 32.41	2.21.25
⑯札幌学院大学	L.グレ(1) (10) 23.59	佐々木祐介(3) (13) 41.27 (15) 17.28	田中 佑典(2) (16) 1.08.42 (18) 27.15	宇野 翔(2) (15) 1.28.08 (16) 19.26	原田 響(3) (16) 1.48.56 (20) 20.48	野村 隼斗(2) (16) 2.21.33 (18) 32.37	2.21.33
⑰大阪経済大学	塚本 裕也(4) (20) 24.37	伊吹 峻汰(3) (19) 42.30 (18) 17.53	富田遼太郎(2) (17) 1.09.21 (15) 26.51	福井 智也(4) (17) 1.28.49 (17) 19.28	山口 祐太(3) (17) 1.49.27 (18) 20.38	内山 優弥(3) (17) 2.22.08 (20) 32.41	2.22.08
⑱北信越学連選抜	福田 裕大(4) (金沢大学) (9) 23.58	鈴木 基史(4) (新潟大学) (15) 41.37 (16) 17.39	本間 豊(1) (新潟医療福祉大学) (19) 1.09.52 (19) 28.15	依田航太郎(4) (新潟大学) (18) 1.29.20 (17) 19.28	野部 勇貴(3) (信州大学) (19) 1.50.09 (21) 20.49	小林 史弥(3) (新潟医療福祉大学) (18) 2.22.17 (16) 32.08	2.22.17
⑲札幌国際大学	板垣 辰矢(M2) (16) 24.22	平沼 拳(1) (18) 42.17 (19) 17.55	山口 敏生(M2) (18) 1.09.26 (17) 27.09	草島 凌(2) (19) 1.29.34 (21) 20.08	白戸 真大(1) (18) 1.49.50 (14) 20.16	水谷慎太郎(2) (19) 2.22.30 (19) 32.40	2.22.30
⑳広島経済大学	大島 拓也(4) (21) 24.50	大下 浩平(M2) (21) 42.51 (20) 18.01	古谷 龍斗(4) (20) 1.11.13 (20) 28.22	柴野 敏一(4) (20) 1.30.34 (15) 19.21	大竹 康平(2) (20) 1.51.16 (19) 20.42	木邑 駿(3) (20) 2.22.34 (12) 31.18	2.22.34
㉑東北学連選抜	松浦 崇之(3) (東北大学) (17) 24.24	新館 裕司(4) (東北学院大学) (20) 42.40 (21) 18.16	沼田 旭陽(2) (東北学院大学) (21) 1.11.33 (21) 28.53	渡辺 誠也(3) (山形大学) (21) 1.31.22 (19) 19.49	伊藤 和哉(3) (東北学院大学) (21) 1.51.59 (17) 20.37	齊藤 寛峻(D3) (東北大学) (17) 2.24.28 (21) 32.29	2.24.28
過去最高記録	K.ジュゲナ (第一工業大学) 22.30(09年)	田村 和希 (青山学院大学) 15.47(17年)	久保田和真 (青山学院大学) 24.11(15年)	鈴木 洋平 (早稲田大学) 17.34(16年)	安藤 悠哉 (青山学院大学) 17.43(16年)	G.ダニエル (日本大学) 28.17(09年)	青山学院大学 2.09.05 (2015年)

【大会報告】

第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会

常任幹事 二見 百香

1. 大会名：第36回
全日本大学女子駅伝対校選手権大会
2. 大会期日：2018年10月28日（日）
3. 場所：宮城・仙台市 弘進ゴムアスリート
パーク仙台～仙台市役所前市民広場
4. エントリー数：25校・東北学連選抜チーム
5. 大会総括

第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会は10月28日（日）、晴天に恵まれた宮城県仙台市で開催されました。シード8校と各地区の予選を勝ち抜いた17校に、東北学連選抜を加えた計26チームが「杜の都」を駆け抜け、名城大が2年連続3度目の栄冠を手にしました。

12時10分に弘進ゴムアスリートパーク仙台をスタート、仙台市役所前市民広場をフィニッシュとする6区間38.0kmで行われたレースは、1区で名城大の和田有菜選手と立命館大の佐藤成葉選手がデッドヒートを繰り広げ、名城大が2秒差のトップで2区へ。名城大はこの区間で3位に後退し、大東文化大が12人抜きをした鈴木優花選手の快走で一気にトップに立ちました。しかし、名城大は3区で高松智美ムセンビ選手が圧倒的な区間賞の走りで見せたものの3位。名城大は残りの3区間を区間4位、2位、4位の安定した

継走で他の追従を許さず、アンカーの青木和主将が2時間5分26秒でフィニッシュしました。

一時4位に落ちていた大東文化大は、5区で関谷夏希選手が区間賞の力走で追いついて2位に入りました。立命館大は4区（中田美優選手）と6区（真部亜樹選手）で区間賞を奪うがんばりを見せたものの3位。以下、東京農業大、松山大の順。6位の京都産業大は1区9位から順位を上げて2年ぶりのシード権獲得。8位の大阪芸術大は前半から安定した走り、初のシード権獲得となりました。

12月30日（日）に富士宮市～富士市で開催される2018全日本大学女子選抜駅伝競走の参加を希望する本大会の上位12校が、出場権を獲得しました。

このように毎年、本大会を無事に開催することができますのも、主催の読売新聞社、共催の仙台市、特別協賛のスターグループ、ご協賛いただいている関係各社、運営協力の東北学生陸上競技連盟、宮城陸上競技協会、仙台市スポーツ振興事業団をはじめとする関係各位のご支援、ご協力があったることと深く感謝しております。来年以降も出場選手、運営側、観客の方々をはじめ、関わる皆様に希望を与えられるようなより良い大会を目指してがんばってまいります。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



2年連続3回目の優勝を果たした名城大。1年生3人、2年生1人を起用した若いオーダーでライバル校を圧倒した



名城大は1区の1年生・和田有菜(右)が立命館大のエース・佐藤成葉とのマッチレースを制し、区間賞を獲得。7月のU20世界選手権3000mで4位に入賞した実力を示した



2区で3位に順位を落とした名城大だが、3区でルーキー・高松智美ムセンビがダントツ区間賞の激走で首位の座を奪回。43秒の貯金をもたらし、独走態勢を築いた



笑顔で連覇のフィニッシュテープを切った名城大のアンカー・青木和

過去10度の優勝を誇る立命館大は、アンカーの真部亜樹が区間賞の力走で順位を1つ上げて3位でフィニッシュ(2時間6分04秒)。4区でも区間賞を奪うなど随所で見せ場を作り、16年連続トップスリーを死守した



2時間6分00秒で2年連続2位に入った大東文化大。1年生・鈴木優花(左)が2区(5.6km)で12人抜きの大快走を演じ、1区13位から一躍首位に立って流れを作った



前回6位の東京農業大は10年ぶりの好成績となる4位。3区の佐藤有希(右)は区間2位の力走で順位を5位から2つ押し上げた。左は2区を区間4位で走り切った1年生の柴原佑紀



前々回の女王・松山大は前回の13位から大幅ジャンプアップの5位。1年生アンカーの大内もかが笑顔でフィニッシュテープを切った

京都産業大は2年ぶりシード復活となる6位でフィニッシュ。エース区間の5区で棚池穂乃香(写真)が8位から7位へ押し上げると、アンカーの安田萌加がさらに1人をかわしてゴール

4年連続で6位以内をキープしてきた大阪学院大が7位。写真は1区5位と好スタートを切った高谷愛奈

8位に食い込み、3年連続6回目の出場でも初めてシード権を手にした大阪芸術大。写真はアンカーの長山夢芽



第36回全日本大学女子駅伝 成績

2018年10月28日(日) 宮城・仙台市陸上競技場-仙台市役所前市民広場 6区間 38km
上段=総合成績 下段=区間成績

チーム名	1区 (6.4km)	2区 (5.6km)	3区 (6.8km)	4区 (4.8km)	5区 (9.2km)	6区 (5.2km)	総合成績 (38km)
①名城大学	和田 有菜(1) (1) 20.48 (1) 20.48	玉城かんな(4) (3) 39.31 (8) 18.43	高松智美ムセンビ(1) (1) 1.01.35 (1) 22.04	松澤 綾音(1) (1) 1.17.47 (4) 16.12	加世田梨花(2) (1) 1.47.40 (2) 29.53	青木 和(4) (1) 2.05.26 (4) 17.46	2.05.26
②大東文化大学	秋山 祐妃(2) (13) 21.30 (13) 21.30	鈴木 優花(1) (1) 39.08 (1) 17.38	元廣 由美(4) (4) 1.02.28 (9) 23.20	今泉野乃香(3) (4) 1.18.40 (4) 16.12	関谷 夏希(3) (2) 1.48.12 (1) 29.32	山口 可純(3) (2) 2.06.00 (5) 17.48	2.06.00
③立命館大学	佐藤 成葉(3) (2) 20.50 (2) 20.50	太田 麻衣(1) (2) 39.23 (3) 18.33	加賀山恵奈(4) (2) 1.02.18 (3) 22.55	中田 美優(2) (2) 1.18.21 (1) 16.03	加賀山聖里(4) (4) 1.48.40 (3) 30.19	真部 亜樹(3) (3) 2.06.04 (1) 17.24	2.06.04
④東京農業大学	保坂野恋花(3) (6) 21.11 (6) 21.11	柴原 佑紀(1) (5) 39.45 (4) 18.34	佐藤 有希(4) (3) 1.02.28 (2) 22.43	土田 佳奈(3) (3) 1.18.38 (3) 16.10	棟久 由貴(3) (3) 1.48.33 (3) 29.55	清水萌衣乃(4) (4) 2.06.10 (2) 17.37	2.06.10
⑤松山大学	田川 友貴(1) (3) 21.07 (3) 21.07	西山未奈美(1) (4) 39.34 (2) 18.27	河内彩衣琉(1) (5) 1.02.43 (4) 23.09	大谷菜南子(1) (5) 1.18.51 (2) 16.08	岡田 佳子(3) (5) 1.49.53 (9) 31.02	大内 もか(1) (5) 2.07.50 (5) 17.57	2.07.50
⑥京都産業大学	橋本 奈津(3) (9) 21.25 (9) 21.25	安井 佳苗(1) (8) 40.07 (6) 18.42	信岡 桃英(3) (7) 1.03.21 (7) 23.14	川戸 希望(3) (8) 1.20.09 (15) 16.48	棚瀬穂乃香(4) (7) 1.50.50 (5) 30.41	安田 萌加(1) (6) 2.08.28 (3) 17.38	2.08.28
⑦大阪学院大学	高谷 愛奈(3) (5) 21.10 (5) 21.10	戸田 朱音(2) (6) 39.52 (6) 18.42	岡本奈々依(3) (6) 1.03.08 (8) 23.16	加藤詩帆加(1) (6) 1.19.24 (6) 16.16	水口 瞳(4) (6) 1.50.23 (8) 30.59	竹内 優花(2) (7) 2.08.30 (11) 18.07	2.08.30
⑧大阪芸術大学	山本明日香(3) (8) 21.21 (8) 21.21	長濱夕海香(2) (7) 40.00 (5) 18.39	志村野々花(2) (8) 1.03.30 (11) 23.30	奥村 純夏(2) (7) 1.20.02 (8) 16.32	永井 智里(3) (8) 1.50.55 (7) 30.53	長山 夢芽(3) (8) 2.09.35 (17) 18.40	2.09.35
⑨東洋大学	和田美々里(2) (12) 21.29 (12) 21.29	伊東明日香(1) (14) 41.00 (19) 19.31	大倉 真歩(3) (14) 1.04.33 (12) 23.33	田浦英理歌(1) (12) 1.21.08 (10) 16.35	白川恵理菜(3) (9) 1.51.57 (6) 30.49	山口いずみ(3) (9) 2.10.04 (11) 18.07	2.10.04
⑩玉川大学	鈴木 真実(2) (21) 22.05 (21) 22.05	中畑 友花(4) (20) 41.19 (14) 19.14	小波 紋加(2) (13) 1.04.31 (6) 23.12	平井 日陽(1) (11) 1.20.58 (7) 16.27	中林 咲(4) (11) 1.52.14 (10) 31.16	森島 司恵(4) (10) 2.10.14 (8) 18.00	2.10.14
⑪日本体育大学	工藤 杏華(2) (18) 21.46 (18) 21.46	村上 愛華(2) (10) 40.29 (8) 18.43	一瀬 美結(1) (9) 1.03.40 (5) 23.11	網野 紗月(3) (9) 1.20.32 (16) 16.52	花野 桃子(2) (10) 1.51.59 (11) 31.27	平野 文珠(3) (11) 2.10.16 (13) 18.17	2.10.16
⑫関西大学	渡邊 桃子(2) (10) 21.26 (10) 21.26	奥川 愛羅(3) (9) 40.23 (10) 18.57	柳谷 日菜(1) (10) 1.04.03 (14) 23.40	小田 真帆(1) (10) 1.20.42 (12) 16.39	高野 涼夏(4) (12) 1.52.33 (14) 31.51	田畑 朱萌(2) (12) 2.10.36 (10) 18.03	2.10.36
⑬関西外国語大学	田中 愛里(4) (14) 21.35 (14) 21.35	西田 優月(1) (13) 40.46 (13) 19.11	高山 育実(4) (11) 1.04.20 (13) 23.34	富士原きらり(4) (13) 1.21.13 (17) 16.53	中島みなみ(4) (13) 1.52.58 (13) 31.45	伊藤 望(4) (13) 2.11.44 (18) 18.46	2.11.44
⑭城西大学	上田 未奈(4) (4) 21.09 (4) 21.09	今 さつき(3) (12) 40.33 (18) 19.24	岡村 未歩(2) (20) 1.05.28 (21) 24.55	佐光菜々子(3) (19) 1.22.11 (14) 16.43	小笠原晴季(3) (12) 1.53.53 (12) 31.42	三ツ木桃香(3) (14) 2.11.50 (6) 17.57	2.11.50
⑮佛教大学	青松 真那(1) (17) 21.45 (17) 21.45	芝本 涼花(1) (17) 41.05 (15) 19.20	川村 楓(3) (17) 1.05.02 (17) 23.57	岡本佳奈絵(1) (15) 1.21.36 (9) 16.34	鹿嶋 葉名(4) (16) 1.53.57 (19) 32.21	山崎 夢乃(2) (15) 2.11.59 (9) 18.02	2.11.59
⑯東北福祉大学	須藤ひかる(2) (7) 21.12 (7) 21.12	古川 恵里(3) (16) 41.04 (22) 19.52	小高 夏綺(1) (19) 1.05.22 (20) 24.18	五十嵐徳子(2) (17) 1.21.59 (11) 16.37	尾関 真衣(4) (17) 1.53.58 (17) 31.59	三浦 佳奈(2) (16) 2.12.30 (16) 18.32	2.12.30
⑰順天堂大学	甲本 まお(1) (19) 21.49 (19) 21.49	高橋 優菜(2) (18) 41.11 (17) 19.22	佐藤みな実(3) (18) 1.05.22 (18) 24.11	松本 奈々(1) (18) 1.22.01 (12) 16.39	白石由佳子(2) (19) 1.54.23 (20) 32.22	座間 栞(1) (17) 2.12.41 (14) 18.18	2.12.41
⑱札幌国際大学	中塚世莉菜(2) (11) 21.28 (11) 21.28	張 佳蓉(3) (11) 40.32 (12) 19.04	阿部麻莉亜(1) (12) 1.04.24 (16) 23.52	青山 侖緒(2) (14) 1.21.30 (18) 17.06	星野 莉子(2) (14) 1.53.29 (17) 31.59	番場 美紅(2) (14) 2.13.03 (23) 19.34	2.13.03
⑲鹿屋体育大学	日隈 彩美(3) (20) 21.50 (20) 21.50	山川 小春(3) (21) 41.33 (21) 19.43	中島 紗弥(1) (16) 1.04.57 (10) 23.24	浅田 琴音(3) (20) 1.22.17 (21) 17.20	早川可奈子(3) (18) 1.54.09 (15) 31.52	小原 瑛花(2) (19) 2.13.59 (24) 19.50	2.13.59
⑳中京大学	杉浦穂乃加(3) (16) 21.42 (16) 21.42	八木 明梨(1) (19) 41.17 (20) 19.35	後藤 梨奈(2) (22) 1.06.41 (23) 25.24	吉村 奈々(2) (22) 1.24.22 (22) 17.41	木下真由香(2) (20) 1.56.18 (16) 31.56	豊永 香音(2) (20) 2.15.20 (20) 19.02	2.15.20
㉑福岡大学	井手 彩乃(2) (22) 22.41 (23) 22.41	今村菜々子(3) (22) 41.44 (11) 19.03	守田 詩歩(4) (21) 1.05.59 (19) 24.15	工藤 佑華(4) (21) 1.23.49 (23) 17.50	光恒 悠里(3) (22) 1.57.03 (23) 33.14	田中 佑香(1) (21) 2.15.22 (15) 18.19	2.15.22
㉒拓殖大学	佐野英里佳(2) (15) 21.40 (15) 21.40	八田ももか(1) (15) 41.01 (16) 19.21	笹川 葉名(2) (15) 1.04.52 (15) 23.51	長部 果穂(1) (16) 1.21.58 (18) 17.06	角田 寧々(1) (21) 1.56.40 (25) 34.42	原目 理央(1) (22) 2.16.09 (22) 19.29	2.16.09
㉓東亜大学	小玉 芽依(2) (25) 23.36 (26) 23.36	井手尾菜鈴(3) (25) 43.39 (24) 20.03	田部真名佳(3) (25) 1.09.43 (25) 26.04	栗原 緑(2) (24) 1.27.41 (24) 17.58	福島 早織(4) (23) 2.00.22 (21) 32.41	木戸 弥由(3) (23) 2.19.41 (21) 19.19	2.19.41
㉔石巻専修大学	庄司 琴美(3) (24) 23.30 (25) 23.30	樋口亜沙美(2) (24) 43.30 (23) 20.00	千葉彩有花(1) (24) 1.09.14 (24) 25.44	丹野雅妃路(1) (25) 1.28.01 (26) 18.47	千葉悠里奈(4) (24) 2.00.55 (22) 32.54	川崎 美祈(4) (24) 2.19.56 (19) 19.01	2.19.56
㉕新潟医療福祉大学	吉田 千紘(1) (23) 22.43 (24) 22.43	竹村 瑞香(2) (23) 42.58 (25) 20.15	今井 萌(2) (23) 1.08.11 (22) 25.13	小合 沙季(4) (23) 1.25.30 (20) 17.19	田村 理沙(3) (25) 2.01.47 (26) 36.17	三原 瑞佳(3) (25) 2.22.09 (25) 20.22	2.22.09
東北学連選抜 (オープン)	舟山 愛理(4) (山形大学) (22) 22.37 (22) 22.37	櫻 千遥(2) (山形大学) (26) 43.17 (26) 20.40	須貝 美齡(1) (山形大学) (26) 1.10.06 (26) 26.49	飯田 夏生(4) (東北大学) (25) 1.28.42 (25) 18.36	栗原 唯(1) (東北大学) (24) 2.02.50 (24) 34.08	桜庭 美紅(3) (秋田大学) (26) 2.23.30 (26) 20.40	2.23.30
過去最高記録	大森 菜月 (立命館大学) 20.22 (13年)	太田 琴菜 (立命館大学) 17.29 (14年)	鍋島 莉奈 (鹿屋体育大) 21.54 (14年)	高見沢里歩 (松山大学) 15.38 (16年)	太田 琴菜 (立命館大学) 29.24 (15年)	高見澤安珠 (松山大学) 17.03 (16年)	立命館大学 2.02.52 (2015年)

【大会報告】

秩父宮賜杯第50回全日本大学駅伝対校選手権大会

常任幹事 二見 百香

1. 大会名：秩父宮賜杯第50回
全日本大学駅伝対校選手権大会
2. 大会期日：2018年11月4日(日)
3. 場所：愛知県・三重県 熱田神宮西門前～
伊勢神宮内宮宇治橋前
4. エントリー数：25校・日本学連選抜チーム・東
海学連選抜チーム
5. 大会総括

秩父宮賜杯第50回全日本大学駅伝対校選手権大会が11月4日(日)に、熱田神宮西門前から伊勢神宮内宮宇治橋前までの全8区間106.8kmのコースで行われました。当日は曇り時々雨とあいにくの天候でしたが、シード6校と各地区予選を勝ち抜いた19校に、日本学連選抜、東海学連選抜を加えた27チームが颯爽と伊勢路を駆け抜けました。

1区で日本学連選抜の石井優樹選手(関西学院大)がトップでタスキを渡し、学連選抜が大会史上初の区間賞を獲得。学連選抜は2区でも永戸聖選手(山梨学院大)が好走しましたが、東海大がエース・關颯人選手の快走でトップに立ちました。東海大は3区でも館澤亨次選手が区間賞を獲得し、2位との差を37秒差に広げる力走を見せました。4区では2位で追う青山学院大が林奎介選手の力走(区間2位)で差を縮める一方で、順天堂大の塩尻和也選手が区間賞の走りで13位から一気に4位まで浮上。5区でも青山学院大は区間賞を獲得した吉田祐也選手が急迫しましたが、東海大は鬼塚翔太選手が2秒差の区間2位と譲らず、24秒差で首位をキープ。しかし、青山学院大は6区でも吉田圭太選手の連続区間賞で東海大に11秒差まで迫ると、7区で森田歩希選手がついにトップに立ち、逆に2分近い大差をつけて最終8区へ。青山学院大はアンカーの梶谷瑠哉選手が余裕の走りで5時間13分11秒でテープを切り、2年ぶり2度目の優勝を果たしました。節目の50回記念大会にふさわしい白熱のレースでした。

今大会からシード権は上位8校に与えられることになり、青山学院大、東海大、東洋大、駒澤大、帝京大、國學院大、法政大、城西大が獲得。最も活躍した

選手に与えられるMVP賞は、青山学院大の森田歩希選手が2年ぶり2度目の選出となりました。

年々注目が高まっているこの全日本大学駅伝が無事に開催されていますのは、関係各位のご支援があってのことです。この大会を通じて、2020年東京オリンピックなど世界に羽ばたく選手が1人でも多く出現することを願っています。大会がさらに発展し、陸上界の盛り上がりにつながるよう、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



全日本大学駅伝対校選手権記念大会



2年ぶり2回目となる優勝のテープを切った青山学院大のアンカー・梶谷瑠哉

秩父宮賜杯 第50回
全日本大学駅伝



開会式で50回記念大会に出場する選手たちに激励の言葉をかけた日本学生陸上競技連合の松本正之会長



1970年3月に始まり、今回で50回の節目を迎えた全日本大学駅伝。1~7区の区間距離も変更され、新たな歴史に向かってスタートを切った



青山学院大は1区の小野田勇次（右端）が自らスパートを仕掛ける積極的なレースを展開。トップから4秒差の3番手（オープン参加を含む）でタスキをつないでチームを流れに乗せた



中盤は波に乗り切れない場面もあった青山学院大だが上位は常にキープ。5区と6区では全日本初出場の吉田祐也（左）と吉田圭太の「ダブル・ヨシダ」がそろって区間賞に輝く快走を見せ、6区終了時点でトップ東海大との差を11秒とし、逆転への布石を打った



青山学院大は7区でエース・森田歩希（手前）が区間2位（日本人最上位）の力走で首位を奪取。さらに1分58秒もの貯金を生み出し、優勝を決定付けた。2年ぶりのMVPも受賞



レース中盤をリードした東海大は前回に続く2位。写真は3区(11.9km)で3年連続の区間賞に輝き、単独首位に立って存在感を示した館澤亨次



前は6区途中まで首位を独走した東洋大は今回は、後半型オーダーで3位を確保。アンカー(19.7km)の相澤晃は58分23秒で前回の1区に続いて区間賞を獲得

大会最多12回の優勝を誇る駒澤大は2年連続の4位。写真左は4人抜きで総合3位に押し上げた2区の片西景。右は3区の伊勢翔吾

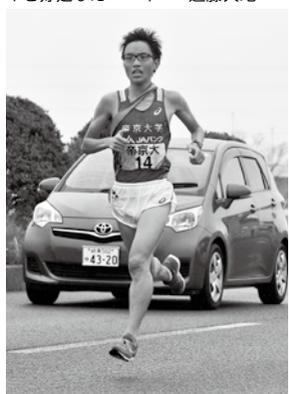
過去最高の5位で初のシード権を獲得した帝京大。写真は4区で区間3位タイと好走したルーキー・遠藤大地



過去最高の9位を上回る6位で初のシード権を手にした國學院大。アンカーの長谷男汰が万感の表情でフィニッシュ



7位で2001年(5位)以来17年ぶりとなるシード権を手にした法政大。写真は1区で総合4位につけた青木涼真(左)から2区の鎌田航生への中継



「8」に拡大されたシード枠の最後に滑り込んだのは城西大。アンカーの金子元気が2チームをかわし、初のシード権を獲得した

1区(9.5km)はオープン参加の日本学連選抜・石井優樹(関西学院大、中央)が27分25秒でトップ。個人の成績は認められるため、距離変更後初の区間賞獲得者となった



秩父宮賜杯第50回全日本大学駅伝対校選手権記念大会 記念パーティー

日時：2018年11月2日(金) 17:30～
会場：名古屋観光ホテル 3階「那古の間」

全日本大学駅伝対校選手権大会も50回大会を迎え、大会の2日前に記念パーティーを開催しました。特別協賛の農林中央金庫をはじめ、これまで大会を支えてくださった多くの関係者出席のもと、厳粛かつ盛大に、無事に執り行うことができました。

【主な式次第】

- ・開催の挨拶：日本学生陸上競技連合 会長 松本 正之
- ・主催者挨拶：朝日新聞社 代表取締役社長 渡辺 雅隆
- ・乾杯の挨拶：テレビ朝日 代表取締役社長 角南 源五
- ・講演「50回を振り返って」：住友電工 陸上部監督 渡辺 康幸
- ・感謝状贈呈：愛知県警察・三重県警察 他
- ・閉会の挨拶：代表取締役社長 横井 正彦

記念パーティーの冒頭で感謝の言葉を述べた日本学生陸上競技連合の松本正之会長



秩父宮賜杯第50回全日本大学駅伝 成績

11月4日(日) 愛知・熱田神宮西門前-三重・伊勢神宮内宮宇治橋前 8区間 106.8km

上段=総合成績 下段=区間成績

チーム名	1区 (9.5km)	2区 (11.1km)	3区 (11.9km)	4区 (11.8km)	5区 (12.4km)	6区 (12.8km)	7区 (17.6km)	8区 (19.7km)	総合成績 (106.8km)
①青山学院大学	小野田勇次(4) (2) 27.29 (3) 27.29	橋詰 大慧(4) (2) 59.50 (5) 32.21	鈴木 聖人(3) (2) 1.34.32 (3) 34.42	林 奎介(4) (2) 2.08.59 (2) 34.27	吉田 祐也(3) (2) 2.45.22 (1) 36.23	吉田 圭太(2) (2) 3.22.51 (1) 37.29	森田 歩希(4) (1) 4.14.27 (1) 51.36	梶谷 瑠哉(4) (1) 5.13.11 (3) 58.44	5.13.11
②東海大学	西川雄一朗(3) (3) 27.31 (4) 27.31	関 颯人(3) (1) 59.46 (4) 32.15	館澤 亨次(3) (1) 1.33.55 (1) 34.09	西田 壮志(2) (1) 2.08.33 (3) 34.38	鬼塚 翔太(3) (2) 2.44.58 (1) 36.25	郡司 陽大(3) (1) 3.22.40 (2) 37.42	湊谷 春紀(4) (2) 4.16.25 (9) 53.45	湯澤 舜(4) (2) 5.15.31 (4) 59.06	5.15.31
③東洋大学	田上 建(2) (10) 27.44 (11) 27.44	西山 和弥(2) (14) 1.00.55 (4) 33.11	今西 駿介(3) (8) 1.35.38 (4) 34.43	浅井 峻雅(2) (10) 2.11.00 (7) 35.22	小笹 椋(4) (5) 2.47.27 (3) 36.27	鈴木 宗孝(1) (5) 3.25.32 (5) 38.05	山本 修二(4) (3) 4.17.34 (3) 52.02	相澤 晃(3) (1) 5.15.57 (1) 58.23	5.15.57
④駒澤大学	加藤 淳(2) (7) 27.40 (8) 27.40	片西 景(4) (3) 1.00.01 (5) 32.21	伊勢 翔吾(4) (4) 1.35.06 (9) 35.05	中村 大成(3) (5) 2.10.29 (8) 35.23	伊東 颯汰(2) (4) 2.47.23 (5) 36.54	中村 大聖(3) (4) 3.25.27 (4) 38.04	堀合 大輔(4) (5) 4.18.46 (8) 53.19	山下 一貴(3) (4) 5.17.29 (2) 58.43	5.17.29
⑤帝京大学	竹下 凱(4) (1) 27.28 (2) 27.28	横井 裕仁(4) (4) 1.00.06 (8) 32.38	若佐 吾誠(3) (3) 1.35.04 (7) 34.58	遠藤 大地(1) (3) 2.09.42 (3) 34.38	小森 稜太(3) (3) 2.46.20 (4) 36.38	谷村 龍生(2) (3) 3.25.00 (9) 38.40	村上 和弥(2) (4) 4.18.17 (7) 53.17	平田幸四郎(3) (5) 5.18.34 (14) 1.00.17	5.18.34
⑥國學院大学	白井 健太(2) (18) 28.11 (19) 28.11	浦野 雄平(3) (7) 1.00.24 (3) 32.13	青木 祐人(3) (7) 1.35.33 (1) 35.09	藤木 宏太(1) (8) 2.10.52 (6) 35.19	江島 峻太(4) (8) 2.47.48 (6) 36.56	茂原 大悟(3) (7) 3.26.24 (8) 38.36	土方 英和(3) (6) 4.19.31 (6) 53.07	長谷 勇汰(4) (6) 5.19.50 (15) 1.00.19	5.19.50
⑦法政大学	青木 涼真(3) (4) 27.34 (5) 27.34	鎌田 航生(1) (11) 1.00.53 (15) 33.19	佐藤 敏也(3) (11) 1.35.55 (8) 35.02	岡原 仁志(3) (9) 2.10.57 (5) 35.02	狩野 琢巳(4) (9) 2.48.09 (10) 37.12	坂東 悠汰(4) (6) 3.26.16 (6) 38.07	土井 大輔(4) (8) 4.20.29 (15) 54.13	大畑 和真(4) (7) 5.20.21 (9) 59.52	5.20.21
⑧城西大学	西嶋 雄伸(3) (15) 28.02 (16) 28.02	狭久保寛也(3) (5) 1.00.10 (1) 32.08	大里 凌央(2) (10) 1.35.44 (12) 35.34	服部 潤哉(4) (11) 2.11.36 (12) 35.52	中原 佑仁(3) (11) 2.49.05 (12) 37.29	瀬下 拓斗(4) (13) 3.28.07 (14) 39.02	鈴木 勝彦(4) (10) 4.21.12 (5) 53.05	金子 元気(4) (8) 5.20.29 (5) 59.17	5.20.29
⑨明治大学	鈴木 聖人(1) (14) 27.59 (15) 27.59	阿部 弘輝(3) (6) 1.00.11 (2) 32.12	三輪 軌道(3) (5) 1.35.08 (6) 34.57	小畑 英人(2) (6) 2.10.34 (7) 35.26	村上 純太(2) (6) 2.47.31 (7) 36.57	斉藤 寛明(3) (8) 3.26.27 (11) 38.56	角出 龍哉(4) (7) 4.20.25 (12) 53.58	佐々木大輔(3) (9) 5.20.37 (13) 1.00.12	5.20.37
⑩神奈川大学	山藤 篤司(4) (8) 27.41 (9) 27.41	安田 共貴(3) (9) 1.00.26 (8) 32.45	多和田涼介(4) (12) 1.36.05 (14) 35.39	北崎 拓矢(4) (13) 2.12.29 (16) 36.24	荻野 太成(3) (12) 2.49.28 (8) 36.59	森 淳吾(3) (11) 3.27.55 (7) 38.27	井手 孝一(2) (13) 4.21.40 (9) 53.45	越川 聖太(3) (10) 5.21.06 (6) 59.26	5.21.06
⑪日本大学	横山 徹(2) (6) 27.40 (7) 27.40	武田悠太郎(2) (10) 1.00.42 (12) 33.02	野田 啓太(2) (15) 1.36.57 (17) 36.15	鈴木 康平(1) (16) 2.13.36 (18) 36.39	松木 之衣(3) (16) 2.52.05 (16) 38.29	北野 太翔(1) (13) 3.31.04 (11) 38.59	P.M.フンゾイ(4) (1) 4.21.25 (11) 50.21	阿部 涼(3) (11) 5.21.08 (8) 59.43	5.21.08
⑫日本体育大学	池田 耀平(2) (12) 27.45 (13) 27.45	中川 翔太(3) (15) 1.01.20 (17) 33.35	宮崎 勇将(4) (14) 1.36.57 (13) 35.37	林田 元輝(4) (14) 2.12.40 (11) 35.43	志賀 康太(4) (14) 2.49.57 (11) 37.17	岩室 天輝(2) (12) 3.27.52 (3) 37.58	廻谷 賢(3) (9) 4.20.57 (4) 53.02	山口 和也(3) (12) 5.21.39 (18) 1.00.42	5.21.39
⑬順天堂大学	野口 雄大(2) (13) 27.54 (14) 27.54	藤曲 寛人(3) (12) 1.00.54 (11) 33.00	橋本 龍一(3) (13) 1.36.40 (15) 35.46	塩尻 和也(4) (4) 2.10.28 (1) 33.48	澤藤 響(2) (7) 2.47.39 (9) 37.11	小島 優作(1) (9) 3.27.30 (19) 39.51	山田 攻(4) (12) 4.21.33 (14) 54.03	難波 皓平(3) (13) 5.22.14 (17) 1.00.41	5.22.14
⑭中央学院大学	高橋 翔也(2) (5) 27.37 (6) 27.37	廣 佳樹(4) (9) 1.00.33 (9) 32.56	栗原 啓吾(1) (9) 1.35.38 (9) 35.05	吉田 光汰(1) (12) 2.11.55 (14) 36.17	藤井 雄大(3) (13) 2.49.30 (13) 37.35	石綿 宏(2) (14) 3.28.19 (10) 38.49	釜谷 直樹(4) (12) 4.22.17 (12) 53.58	有馬 圭哉(3) (14) 5.22.18 (11) 1.00.01	5.22.18
⑮早稲田大学	千明龍之佑(1) (11) 27.44 (12) 27.44	穴倉 健浩(2) (13) 1.00.54 (13) 33.10	中谷 雄輝(1) (6) 1.35.13 (2) 34.19	太田 直希(1) (7) 2.10.49 (10) 35.36	半澤 黎斗(1) (10) 2.48.48 (14) 37.59	小澤 直人(4) (10) 3.27.45 (12) 38.57	遠藤 宏夢(3) (15) 4.23.22 (16) 55.37	清水 敬太(4) (15) 5.23.21 (10) 59.59	5.23.21
⑯立命館大学	小岩 慎治(4) (16) 28.03 (17) 28.03	高畑 祐樹(3) (16) 1.01.25 (16) 33.22	原田 裕作(4) (16) 1.37.21 (15) 35.56	吉岡 遼人(2) (15) 2.13.30 (13) 36.09	前川 紘導(2) (15) 2.51.39 (16) 38.09	岡田 浩平(2) (15) 3.30.57 (16) 39.18	辻村 公佑(4) (11) 4.24.44 (16) 53.47	今井 崇人(3) (16) 5.24.46 (12) 1.00.02	5.24.46
⑰京都産業大学	浦田 昂生(1) (23) 29.23 (25) 29.23	稲垣 雄二(2) (22) 1.04.26 (23) 35.03	市川 佳孝(2) (22) 1.41.43 (23) 37.17	井本 景(4) (21) 2.18.48 (20) 37.05	日下 聖也(4) (18) 2.57.06 (17) 38.18	西川 和希(4) (18) 3.36.29 (17) 39.23	黒川 大輔(3) (18) 4.32.54 (19) 56.25	上坂 優太(4) (17) 5.32.23 (7) 59.29	5.32.23
⑱皇學館大学	山下 大地(4) (20) 28.28 (22) 28.28	村上 一真(4) (18) 1.02.48 (21) 34.20	桑山 楓矢(2) (18) 1.39.48 (20) 37.00	上村 直也(2) (17) 2.16.05 (14) 36.17	原田 翼(1) (17) 2.55.54 (23) 39.49	平山 寛人(2) (17) 3.35.20 (18) 39.26	新美 健(3) (17) 4.32.34 (21) 57.14	野野 恵大(3) (18) 5.35.06 (19) 1.02.32	5.35.06
⑲愛知工業大学	植松 達也(3) (19) 28.26 (21) 28.26	小林 宏輔(2) (21) 1.03.34 (24) 35.08	児玉 勘太(3) (20) 1.40.39 (21) 37.05	鈴木 高虎(2) (19) 2.17.52 (21) 37.13	岡本 優樹(4) (19) 2.57.08 (29) 39.16	服部 大暉(2) (19) 3.37.00 (29) 39.52	高橋創太郎(3) (19) 4.34.16 (22) 57.16	中村 正明(2) (19) 5.38.14 (26) 1.03.58	5.38.14
⑳広島経済大学	木邑 駿(3) (17) 28.05 (18) 28.05	大島 拓也(4) (19) 1.03.04 (21) 34.59	古谷 龍斗(4) (21) 1.41.26 (25) 38.22	柴野 敏一(4) (22) 2.19.12 (23) 37.46	一宮 颯斗(2) (20) 2.57.43 (19) 38.31	山崎 達哉(1) (21) 3.39.32 (24) 41.49	脇田 怜司(2) (20) 4.36.37 (20) 57.05	大下 浩平(M2) (20) 5.40.14 (24) 1.03.37	5.40.14
㉑第一工業大学	J.ギチア(4) (9) 27.44 (10) 27.44	城ヶ崎大地(4) (17) 1.02.03 (20) 34.19	川原林 廉(3) (17) 1.38.42 (17) 36.39	白ヶ澤優樹(1) (18) 2.17.38 (27) 38.56	増野 光希(2) (21) 2.57.49 (24) 40.11	久留須保志(2) (20) 3.39.12 (20) 41.23	松永 成昭(2) (22) 4.37.47 (26) 58.35	米永 夏輝(4) (21) 5.40.21 (20) 1.02.34	5.40.21
㉒大阪経済大学	内山 優弥(3) (24) 30.07 (26) 30.07	伊吹 峻汰(3) (24) 1.05.28 (25) 35.21	塚本 裕也(4) (23) 1.41.58 (18) 36.30	福井 智也(4) (23) 2.19.18 (22) 37.20	酒上真太郎(2) (23) 2.59.43 (25) 40.25	松原 恭祐(3) (23) 3.41.44 (17) 42.01	富田遼太郎(2) (21) 4.37.40 (17) 55.56	山口 祐太(3) (22) 5.41.44 (27) 1.04.04	5.41.44
㉓札幌学院大学	田中 佑明(2) (22) 29.19 (24) 29.19	L.グレ(1) (20) 1.03.10 (18) 33.51	佐々木祐介(3) (19) 1.40.30 (24) 37.20	宇野 翔(2) (20) 2.18.38 (24) 38.08	岩本 元汰(2) (22) 2.58.20 (22) 39.42	工藤 真(1) (22) 3.39.55 (23) 41.35	幸谷 玲弥(1) (23) 4.40.49 (27) 1.00.54	野村 隼斗(2) (23) 5.44.34 (25) 1.03.45	5.44.34
㉔新潟医療福祉大学	高山 雅弘(4) (25) 30.45 (27) 30.45	本間 豊(1) (25) 1.06.54 (25) 36.09	小熊 玲央(4) (25) 1.45.36 (26) 38.42	阿部 智輝(3) (25) 2.24.19 (25) 38.43	村越 大知(1) (25) 3.05.05 (26) 40.46	山下 恵大(2) (24) 3.47.43 (24) 42.38	小林 史弥(3) (18) 4.43.40 (24) 55.57	若澤 新也(4) (22) 5.46.46 (22) 1.03.06	5.46.46
㉕東北大学	松浦 崇之(3) (21) 28.48 (23) 28.48	酒井 洋輔(4) (23) 1.04.29 (27) 35.41	立野 佑太(3) (24) 1.43.26 (27) 38.57	早坂 謙児(M2) (24) 2.22.17 (26) 38.51	松田 将大(4) (24) 3.04.52 (27) 42.35	木村 秀(2) (25) 3.48.03 (25) 43.11	本田 雄生(M2) (25) 4.46.26 (25) 58.23	齊藤 寛峻(D3) (25) 5.49.34 (23) 1.03.08	5.49.34
日本学連選抜 (オープン)	石井 優樹(3) (関西学院大学) (1) 27.25	永戸 聖(4) (山梨学院大学) (7) 32.24	坂東 剛(4) (関西学院大学) (5) 34.52	土肥 祐貴(4) (関西大学) (19) 36.58	米井 翔也(4) (亜細亜大学) (2) 2.49.44	古川 大晃(4) (熊本大学) (15) 39.07	松籠 悠斗(3) (星橋道都大学) (23) 57.28	辻川 諒(2) (九州大学) (16) 1.00.31	5.26.50
東海学連選抜 (オープン)	國司 寛人(D1) (名古屋大学) (1) 28.23	岸田 裕也(M2) (名古屋大学) (7) 1.02.28	武隈 泰貴(4) (岐阜経済大学) (5) 1.39.43	久田 淳司(M5) (豊田高専) (2) 2.16.09	下地 健介(4) (愛知教育大学) (2) 2.55.22	細澤 幸輝(6) (三重大学) (3) 3.35.36	石川 陽一(2) (愛知大学) (4) 4.33.39	塚本 亮司(3) (名古屋大学) (21) 1.02.55	5.36.34
過去最高記録	今大会から 新コース	今大会から 新コース	今大会から 新コース	今大会から 新コース	今大会から 新コース	今大会から 新コース	今大会から 新コース	M. J. モーグス (山梨学院大) 55.32(07年)	今大会から 新コース

【大会報告】

2018全日本大学女子選抜駅伝競走

常任幹事 古屋敷 律希

1. 大会名：2018全日本大学女子選抜駅伝競走
2. 大会期日：2018年12月30日(日)
3. 場所：静岡・富士市／富士宮市 富士山本宮浅間大社前～富士総合運動公園陸上競技場
4. エントリー数：20校・全日本大学選抜チーム・静岡県学生選抜チーム 計22チーム
5. 大会総括

平成30年12月30日(日)、2018年を締めくくる駅伝大会である2018全日本大学女子選抜駅伝競走(2018富士山女子駅伝)が、静岡県の富士宮市・富士山本宮浅間大社前から富士市・富士総合運動公園陸上競技場までの7区間43.4kmで行われました。当日は、すがすがしい冬晴れにも恵まれ、風もほとんどない最高のコンディションの中、第36回全日本大学女子駅伝の上位12校、5000mのタイムから選考された8校に全日本大学選抜チームと静岡県学生選抜チームを加えた計22チームが今年度も日本一を決めるのに相応しい激闘を繰り広げました。

現行コースになってから未だ立命館大学しか優勝を果たしていないこの大会において、立命館大学の6連覇か、10月に仙台で行われた第36回全日本大学女子駅伝で2連覇を果たした名城大学、同2位の大東文化大学が立命館大学の牙城を崩すかに注目が集まった今大会。1区では全日本大学選抜チームの佐野英里佳選手(拓殖大学)が名だたる強豪校を押さえ区間賞を獲得しました。全日本大学選抜チームは、続く2区で五島莉乃選手(中央大学)が区間新記録を叩き出して区間賞、3区でも樺沢和佳奈選手(慶應義塾大学)が区間賞を獲得し、3区間連続で区間賞に輝きました。大学としての出場は叶いませんでしたが、選抜チームとして総合4位に入り、レースを大いに沸かせました。

初優勝を目指す名城大学は、1区から2位の好位置をキープ。4区の松浦佳南選手が区間賞の走りを見せて先頭に立つと、続く5区加世田梨花選手、6区の玉城かなな選手も区間賞、アンカー・高松智美ムセンビ選手は区間賞とはならなかったものの区間

新記録の走りで、大会新記録で初優勝。2018年度大学女子駅伝2冠を果たしました。一方、立命館大学は大会6連覇の達成はできませんでしたが、安定感のある走りを見せて3位に入りました。

2位には5区の関谷夏希選手、7区の鈴木優花選手が区間賞を獲得した大東文化大学が入りました。7区の鈴木選手は区間2位の選手に42秒差をつけ、従来の区間記録を1分02秒塗り替える圧倒的なタイムを叩き出しました。5位には5区の棚池穂乃香選手が力走を見せた京都産業大学、6位には東京農業大学が入り、7位の大阪学院大学、8位の日本体育大学はラストスパートを制して入賞を果たしました。また、静岡県の中学・高校出身の選手で構成された静岡県学生選抜チームは、残念ながら最下位の22位となってしまったものの、地元の大声援を後押しに、レースを沸かせました。

2018年の日本学連主催競技会はこの大会をもって終了致しました。トラック&フィールドや駅伝大会では、多くの好記録・名勝負が生まれた1年でした。2019年も多くの皆様のご支援・ご協力を賜りながら、日本学生陸上界の向上と進展のためにより一層の努力をしていく所存でありますので、何卒よろしくお願い致します。



富士山を背に、富士山本宮浅間大社前を一齐にスタートした1区ランナーたち



名城大学は4区・松浦、5区・加世田梨花(左)、6区・玉城かんなの3連続区間賞でライバルを一気に突き放した

全日本女王の名城大学が4区・松浦佳南でトップの全日本学生選抜を逆転し、その後は独走。初優勝と2018年大学女子駅伝2冠を手にした



大会新の2時間22分50秒でフィニッシュテープを切った名城大学のアンカー・高松智美ムセンビ



現行コースになって史上2校目の「優勝校」となった名城大学の選手たち。後列は米田勝朗監督

全日本に続いて2位を占めた大東文化大学。写真は最終7区(8.3km)で従来の記録を1分02秒も短縮する驚異的な区間新記録を樹立した1年生の鈴木優花



6連覇を狙った立命館大学は3位にとどまる。写真は一時2位に浮上した4区の松本美咲(左)から主将・加賀山美里への中継



全日本大学選抜チームが1区から3連続区間賞で先行するなど、大健闘の4位に食い込む。写真は口火を切った1区の佐野英里佳(拓殖大学、前列右)

2区の五島莉乃(中央大学、左)と3区の樺沢和佳奈(慶應義塾大学)も区間賞リレー



2018全日本大学女子選抜駅伝 成績

2018年12月30日(日) 富士山本宮浅間大社前-富士総合運動公園陸上競技場
 上段=通過タイム 下段=区間タイム ●=大会新、区間新

チーム名	1区 (4.1km)	2区 (6.8km)	3区 (3.3km)	4区 (4.4km)	5区 (10.5km)	6区 (6km)	7区 (8.3km)	総合成績 (43.4km)
①名城大学	青木 和④ (2) 13.00	和田 有菜① (2) 34.09 (2) 21.09	加藤 綾華② (2) 44.33 (4) 10.24	松浦 佳南④ (1) 59.00 (1) 14.27	加世田梨花② (1) 1.33.43 (1) 34.43	玉城かんな④ (1) 1.53.29 (1) 19.46	高松智美ムセンビ① (1) 2.22.50 (2) ●29.21	●2.22.50
②大東文化大学	元廣 由美④ (6) 13.03	秋山 祐妃② (5) 34.56 (12) 21.53	今泉野乃香③ (6) 45.27 (7) 10.31	山口 可純③ (6) 1.00.16 (7) 14.49	関谷 夏希③ (3) 1.34.59 (1) 34.43	齋藤 暁④ (3) 1.55.40 (7) 20.41	鈴木 優花① (2) 2.24.19 (1) ●28.39	2.24.19
③立命館大学	中田 美優② (5) 13.02	佐藤 成葉③ (3) 34.21 (3) 21.19	坂尻 有花① (3) 44.47 (5) 10.26	松本 美咲② (2) 59.22 (2) 14.35	加賀山実里④ (2) 1.34.46 (4) 35.24	吉蘭 菜① (2) 1.55.14 (4) 20.28	真部 亜樹③ (3) 2.25.22 (3) 30.08	2.25.22
④全日本選抜	佐野英里佳② (拓殖大学) (1) 12.58	五島 莉乃③ (中央大学) (1) 33.48 (1) ●20.50	樺沢和佳奈② (慶應義塾大学) (1) 44.05 (1) 10.17	加藤 優果① (中京学院大学) (3) 59.36 (17) 15.31	須藤ひかる② (東北福祉大学) (6) 1.36.05 (12) 36.29	上田 雪菜③ (筑波大学) (4) 1.55.55 (2) 19.50	大東 優奈③ (兵庫大学) (4) 2.26.54 (11) 30.59	2.26.54
⑤京都産業大学	安田 萌加① (15) 13.22	橋本 奈津③ (4) 34.46 (4) 21.24	堀尾 咲月① (8) 45.34 (13) 10.48	八木あかり② (13) 1.01.09 (19) 15.35	棚池穂乃香④ (4) 1.35.53 (3) 34.44	信岡 桃英⑤ (5) 1.56.19 (3) 20.26	安井 佳苗① (5) 2.26.59 (7) 30.40	2.26.59
⑥東京農業大学	保坂野恋花③ (7) 13.07	柴原 佑紀① (9) 35.05 (13) 21.58	土田 佳奈③ (10) 45.54 (14) 10.49	原田 紗枝③ (10) 1.00.42 (6) 14.48	佐藤 有希④ (8) 1.36.30 (6) 35.48	北川 結衣② (7) 1.57.17 (8) 20.47	清水萌衣乃④ (6) 2.27.47 (5) 30.30	2.27.47
⑦大阪学院大学	高谷 愛奈③ (3) 13.02	戸田 朱音② (16) 35.24 (16) 22.22	室伏 香音① (12) 45.57 (8) 10.33	加藤詩帆加① (11) 1.00.55 (9) 14.58	水口 瞳④ (7) 1.36.23 (5) 35.28	谷川 愛美③ (8) 1.57.19 (11) 20.56	岡本奈々依③ (7) 2.28.01 (8) 30.42	2.28.01
⑧日本体育大学	花野 桃子② (17) 13.33	工藤 杏華② (10) 35.06 (5) 21.33	安部実伽子① (5) 45.26 (3) 10.20	村上 愛華② (5) 1.00.13 (5) 14.47	一瀬 美結① (9) 1.36.44 (13) 36.31	山本 美和① (11) 1.57.41 (12) 20.57	鈴木彩智歩③ (8) 2.28.02 (4) 30.21	2.28.02
⑨東洋大学	田浦英理歌① (12) 13.17	和田美々里② (11) 35.06 (8) 21.49	室伏杏花里④ (9) 45.43 (11) 10.37	伊東明日香① (7) 1.00.39 (8) 14.56	白川恵理菜③ (10) 1.36.52 (10) 36.13	山口いずみ③ (9) 1.57.28 (6) 20.36	森田 歩実④ (9) 2.28.02 (6) 30.34	2.28.02
⑩白鷗大学	菅野 鈴菜④ (4) 13.02	坂本 ちほ④ (17) 35.24 (16) 22.22	高橋 佳歩① (13) 45.59 (9) 10.35	黒澤 実紀② (8) 1.00.40 (3) 14.41	藤田 愛子④ (11) 1.36.54 (11) 36.14	穴戸 梨夏② (10) 1.57.29 (5) 20.35	野澤 綺花① (10) 2.28.20 (10) 30.51	2.28.20
⑪城西大学	今 さつき③ (20) 13.46	上田 未奈④ (14) 35.20 (6) 21.34	岡村 未歩② (14) 46.02 (12) 10.42	籠谷 有希② (12) 1.01.02 (10) 15.00	三ツ木桃香③ (14) 1.38.03 (15) 37.01	佐光菜々子③ (13) 1.58.52 (10) 20.49	小笠原晴季③ (11) 2.29.59 (12) 31.07	2.29.59
⑫関西大学	新堂 桃子① (16) 13.30	森 紗也佳③ (20) 36.37 (21) 23.07	大江 美咲② (21) 47.35 (19) 10.58	北田 朋己④ (20) 1.02.50 (14) 15.15	渡邊 桃子② (16) 1.38.39 (7) 35.49	高野 涼夏④ (14) 1.59.37 (13) 20.58	小田 真帆① (12) 2.30.25 (9) 30.48	2.30.25
⑬佛光大学	青松 真那① (8) 13.11	川村 楓③ (8) 35.03 (11) 21.52	芝本 涼花① (7) 45.29 (5) 10.26	山下 桃花② (9) 1.00.41 (13) 15.12	山崎 夢乃② (12) 1.37.35 (14) 36.54	善村穂乃香④ (12) 1.58.45 (15) 21.10	岡本佳奈絵① (13) 2.30.34 (18) 31.49	2.30.34
⑭松山大学	西山未奈美① (10) 13.13	田川 友貴① (7) 35.02 (8) 21.49	大谷菜南子① (4) 45.20 (2) 10.18	岡田 佳子③ (4) 1.00.02 (4) 14.42	河内彩衣琉① (5) 1.36.02 (9) 36.00	大内 もか① (6) 1.57.14 (16) 21.12	徳永真紗希② (14) 2.30.39 (22) 33.25	2.30.39
⑮関西外国語大学	西出 優月① (13) 13.20	田中 愛里④ (15) 35.21 (15) 22.01	伊藤 望④ (11) 45.56 (9) 10.35	長谷川菜摘① (15) 1.01.36 (20) 15.40	中島みなみ④ (17) 1.39.03 (20) 37.27	富士原きらり④ (16) 1.59.50 (8) 20.47	高山 育実④ (15) 2.31.03 (14) 31.13	2.31.03
⑯玉川大学	中畑 友花④ (11) 13.16	中林 咲④ (18) 35.51 (19) 22.35	森島 司恵④ (17) 46.40 (14) 10.49	平井 日陽① (16) 1.01.47 (12) 15.07	小波 紋加② (13) 1.37.43 (8) 35.56	大石 楓③ (15) 1.59.43 (22) 22.00	鈴木 真実② (16) 2.31.16 (16) 31.33	2.31.16
⑰京都光華女子大学	田瀬 知佳① (14) 13.20	藤村 晴菜② (12) 35.19 (14) 21.59	瀬理 穂香④ (15) 46.08 (14) 10.49	上野 夢歩③ (14) 1.01.24 (15) 15.16	藤村 晶菜② (15) 1.38.37 (18) 37.13	西田 彩花④ (17) 1.59.55 (17) 21.18	古橋 亜巳③ (17) 2.31.29 (17) 31.34	2.31.29
⑱大阪芸術大学	長濱夕海香② (19) 13.38	奥村 純夏② (21) 36.38 (20) 23.00	中沢りんこ① (20) 47.27 (14) 10.49	宮永 光唯① (18) 1.02.33 (11) 15.06	山本明日香③ (20) 1.39.44 (17) 37.11	長山 夢芽③ (20) 2.01.13 (21) 21.29	志村野々花② (18) 2.32.20 (12) 31.07	2.32.20
⑲福岡大学	今村菜々子③ (9) 13.12	井手 彩乃② (6) 35.01 (8) 21.49	松宮 茜③ (16) 46.24 (21) 11.23	旭 真奈③ (17) 1.01.53 (16) 15.29	光恒 悠里③ (19) 1.39.42 (22) 37.49	花房 百加① (18) 2.00.46 (14) 21.04	田中 佑香① (19) 2.32.51 (19) 32.05	2.32.51
⑳順天堂大学	松本 奈々① (21) 13.59	佐藤みな実③ (19) 36.32 (18) 22.33	花田 咲絵② (19) 47.26 (18) 10.54	甲本 まお① (21) 1.02.57 (17) 15.31	白石由佳子② (21) 1.40.20 (19) 37.23	座間 菜① (21) 2.01.47 (18) 21.27	高橋 優菜② (20) 2.33.16 (15) 31.29	2.33.16
㉑中京大学	八木 明梨① (18) 13.37	杉浦穂乃加③ (13) 35.19 (7) 21.42	権田 結希③ (18) 46.43 (22) 11.24	光部 凧沙③ (19) 1.02.36 (21) 15.53	木下真由香② (18) 1.39.37 (15) 37.01	吉村 奈々② (19) 2.01.10 (20) 21.33	後藤 梨奈② (21) 2.33.33 (21) 32.23	2.33.33
㉒静岡県選抜	田中ひかる① (国土館大学) (22) 14.04	稲岡 菜月① (静岡県立大学) (22) 37.39 (22) 23.35	森野 純夏① (高知大学) (22) 48.59 (20) 11.20	黒川ももか③ (名城大学) (22) 1.05.22 (22) 16.23	吉田 千紘① (新潟医療福祉大学) (22) 1.43.08 (21) 37.46	佐々木渚沙① (玉川大学) (22) 2.05.05 (21) 21.57	金子 由依④ (大阪学院大学) (22) 2.37.26 (20) 32.21	2.37.26
過去最高記録	高見澤安珠 (松山大学) 12.42(16年)	佐藤 成葉 (立命館大学) 21.05(17年)	田中 綾乃 (立命館大学) 10.10(17年)	池内 彩乃 (立命館大学) 14.13(16年)	関谷 夏希 (大東文化大学) 34.17(17年)	上原明悠美 (松山大学) 19.38(16年)	真部 亜樹 (立命館大学) 29.41(17年)	立命館大学 2.23.46 (2017年)

東京マラソン2019 準エリートの部への選手推薦について

常任幹事 黒井 文香

1. 大会名：東京マラソン 2019
2. 大会期日：2019年3月3日(日)
3. 場 所：東京都 東京都庁～東京駅前・行幸通り
4. 準エリート枠推薦について

2019年3月3日(日)に、東京マラソン2019が行われます。出場選手は、第20回日本学生ハーフマラソン選手権大会(2018年3月4日開催)および第20回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会(2018年3月17日開催)のそれぞれ成績上位者(最大男子50名、女子30名)ならびに各地区学連・日本学連の推薦競技者の中で東京マラソン2019への出場希望者を募りました。表の21名(男子18名、女子3名)を準エリートの部へ推薦することとなりました。

全員が学生代表としての誇りを持って走り、この経験を糧に、世界選手権や2020東京オリンピックなどの世界の舞台で活躍することを期待しています。



昨年度の東京マラソンも多くの学生ランナーが出場した

東京マラソン2019 準エリート推薦選手

氏名	所属	推薦タイム	氏名	所属	推薦タイム
山田 滉介	青山学院大学	1.03.45	池田 親	筑波大学	1.08.17
吉田 祐也	青山学院大学	1.04.09	金丸 逸樹	筑波大学	1.07.00
竹石 尚人	青山学院大学	1.04.10	金子 元気	城西大学	1.04.48
金原 弘直	順天堂大学	1.04.58	小林 史弥	新潟医療福祉大学	1.10.17
森 太一	立命館大学	1.05.03	木邑 駿	広島経済大学	1.08.14
林 奎介	青山学院大学	1.03.29	辻川 諒	九州大学	30.55.80 (10000m)
森田 歩希	青山学院大学	28.44.62 (10000m)	畔上 和弥	帝京大学	1.02.30
鈴木 壘人	青山学院大学	1.06.40	清水萌衣乃	東京農業大学	1.12.45
下 史典	駒澤大学	1.02.36	軸屋 七海	活水女子大学	1.15.29
堀合 大輔	駒澤大学	1.03.17	川戸 希望	京都産業大学	1.17.02
湯澤 舜	東海大学	1.03.12			

※2017年11月1日から2018年10月31日の期間に突破した記録

公益社団法人日本学生陸上競技連合

第36回理事会 議事録

1. 開催された日時

平成30年12月8日(土)

14時55分から16時50分まで

2. 開催された場所

T K P 品川カンファレンスセンター 4階 4 J

3. 理事総数及び定足数

現在数 22名、定足数 12名

4. 出席理事数

18名

(出席) 松本 正之、澤木 啓祐、神尾 正俊、
永井 純、栗山 佳也、蒲原 一之、障子 恵、
山下 誠、長澤 光雄、植田 恭史、日隈 広至、
中島 剛、三條 俊彦、黒須 雅弘、伊藤 輝雄、
渋谷 俊浩、鶴崎 健一、岩本 慎一

(欠席) 青葉 昌幸、杉山 喜一、関根 春幸、
外園 隆

(監事出席) 久松 洋一、山本 俊樹

5. 議題

【協議事項】

第1号議案「本年度普通会員について(最終)」

(資料1)

第2号議案「平成31年度主要事業日程について」

(資料2)

第3号議案「第30回ユニバーシアード競技大会(ナポリ)について」

・選考要項/標準記録(資料3)

・基幹役員(資料4)

・ユニバーシアード派遣候補選手(資料5)

・ユニバーシアード派遣選手選考委員(資料6)

・ユニバーシアード派遣準備スケジュール(資料7)

第4号議案「平成31年度学生役員候補者について」

(資料8)

第5号議案「その他」

【報告事項】

(1)会務報告について(平成30年9月6日以降)

(資料9)

(2)2018オランダ・ナイメーヘン/ヒルズ15kmロードレース報告(資料10)

(3)各主催駅伝大会について(出場枠等)

・第31回出雲全日本大学駅伝競走(資料11)

・第37回全日本大学女子駅伝対校選手権大会

(資料12)

・第51回全日本大学駅伝対校選手権大会(資料13)

・2018全日本大学女子選抜駅伝競走(資料14)

・各駅伝テレビ視聴率について(資料15)

・駅伝大会選手の競技続行困難時の対応(資料16)

(4)東京マラソン・準エリート学生登録について

(資料17)

(5)第64回指導者会議について(資料18)

(6)ワールドポイントランキング制度・外国人登録について(資料19)

(7)ナンバーカード広告について(資料20)

(8)一般社団法人大学スポーツ協会について(別紙)

(9)日本学生女子ハーフマラソン新コースについて

(別紙)

(10)コンプライアンス委員会(倫理委員会)の設置について(別紙)

(11)2020オリンピック・パラリンピックについて

(12)その他

6. 議事の経過及びその結果

(1)定足数の確認

会に先立ち、大西清司事務局長が定足数の充足を確認した。

(2)議長及び議事録署名人の選出

松本正之の会長が議長となり、本会議の開会を宣した。

議事録署名人は定款第33条に基づき、松本正之の会長、久松洋一監事、及び山本俊樹監事となった。

(3)議案の審議状況及び議決結果等

【協議事項】

第1号議案「本年度普通会員について(最終)」

永井純専務理事から、資料1に基づき提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第2号議案「平成31年度主要事業日程について」

永井純専務理事から、資料2に基づき提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第3号議案「第30回ユニバーシアード競技大会（ナポリ）について」

永井純専務理事から、資料4、資料5、資料6及び資料7、栗山佳也常務理事から、資料3に基づき提案があった。

また、提案の際に永井純専務理事からJOC台帳登録者の一覧（資料5）には高校生や大学院への進学者を含んでいないこと、一般種目の選考については静岡国際（2019年5月に開催予定）にて行う予定であること及び11月13日に行われたJOCとの個別折衝の際に宿泊先が台北と比較すると不足している点（派遣人員を減らす可能性があること）を考慮いただきたい旨の依頼があったこと、栗山佳也常務理事から前回の理事会後に発表された大会要項の内容に合わせて選考要項を修正及び前回理事会で要検討となっていた派遣標準記録を一部修正したことの説明があった。

なお、本事項において、次の意見及び質疑応答があった。

（澤木啓祐副会長）基幹役員に競歩関係者も含めるべきではないか。

（永井純専務理事）事務作業が中心となることを考慮し、意図的に含めていない。コーチには含める予定である。

（澤木啓祐副会長）男子10000mの派遣標準記録（28分45秒0）をもう少し上げるべきではないか。

（栗山佳也常務理事）前回の理事会にて同様の意見をいただき、強化委員会にて再検討したが、変更の必要はないとの結論に至った。

（澤木啓祐副会長）4月以降の記録で選考されるのであればよいが、冬季の記録で選考すべきではない。

（栗山佳也常務理事）記録上位から選考することに変わりはない。

（伊東輝雄理事）兵庫リレーカーニバル（2019年4月に開催予定）において、10名以内での選考レースの設定を依頼している。

（山下誠理事）設定の記録は、ランキング10位相当の記録を考慮してある。あくまでも選考レースに参加するために突破、必要な記録であるとの認識である。

（植田泰史理事）ユニバーシアード派遣候補選手がアジア選手権（2019年4月にドーハにて開催予定）の代表選手となった場合はどのようになるのか。

（栗山佳也常務理事）選考要項Ⅱ、5により対応する。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第4号議案「平成31年度学生役員候補者について」

永井純専務理事から、資料8に基づき提案があった。

なお、本事項において、次の意見及び質疑応答があった。

（三條俊彦理事）北信越からの幹事について、学年が2年となっているが正しくは3年である。

（永井純専務理事）訂正する。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第5号議案「その他」

永井純専務理事から、日本陸上競技連盟関係の評議員、理事及び栄章受章者の選出について、会長、副会長及び専務理事による選出とし、会長一任にて決定することの提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

【報告事項】

(1)会務報告について（平成30年9月6日以降）

永井純専務理事から、資料9に基づき報告があった。

(2)2018オランダ・ナイメーヘン／ヒルズ15kmロードレース報告

山下誠理事から、資料10に基づき報告があった。

(3)各主催駅伝大会について（出場枠等）

永井純専務理事から、主催の各駅伝大会について次の報告があった。

- ・出雲全日本大学選抜駅伝競走について
30回大会を迎え記念行事として特にご尽力いただいた個人や団体に対して感謝状を贈呈したこと。
- ・全日本大学女子駅伝対校選手権大会について
次年度大会に向けた新コースに関すること。
- ・全日本大学駅伝対校選手権大会について
50回記念大会として実施。中継所の変更、シード権を6校から8校に変更、MVP選出基準の変更があったこと。大会の前々日には記念祝賀会が開

催されたこと及び10年間お世話になった特別協賛のJ Aバンクが今回で撤退すること。

- ・2018全日本大学女子選抜駅伝競走について
資料14の通り出場チームが先日決定したこと、今回から東日本選抜及び西日本選抜に変わり、全日本大学選抜チームの編成を行うこと、また静岡県選抜を正式参加として取り扱うこと。

- ・各駅伝テレビ視聴率について
資料15の通りであったこと。

- ・駅伝大会における選手の競技続行困難時の対応について

資料16の通り競技委員会から提案があり、関係の各委員会にて確認後、主催の駅伝大会に対して適用していく方針であること。

山下誠理事から、資料11、12及び13に基づき報告があった。

松本会長（議長）から、10年間ご支援いただいたJ Aバンクに対し、感謝を伝えたこと、ADKが次の特別協賛会社の獲得に向け、全社で努力をしていただいていることの補足説明があった。

- (4)東京マラソン・準エリート学生登録について
永井純専務理事から、資料17に基づき報告があった。

- (5)第64回指導者会議について
永井純専務理事から、資料18に基づき報告があった。

- (6)ワールドポイントランキング制度・外国人登録について

永井純専務理事及び大西清司事務局長から、資料19に基づき報告があった。

なお、本事項において、次の意見及び質疑応答があった。

- (澤木啓祐副会長) この制度は、試みなのか、決定事項なのか。

- (大西事務局長) 2019年ドーハ世界選手権での採用は断念されたが、日本における競技会運営については、すでに運用されているので、決定事項として課題解決に向けて対応していかなければならない。

外国人の学連登録や競技会での対応においては、これまでうやむやであったが、諸規定を遵守し、各地区学連も対応していく必要がある。

- (中島理事) 日本陸連競技運営委員会の立場から、各

学連での対応について補足があった。

- (7)ナンバーカード広告について
永井純専務理事及び大西清司事務局長から、資料20に基づき報告があった。

- (8)一般社団法人大学スポーツ協会について
永井純専務理事から、別紙資料に基づき報告があった。
また、報告の際に一般社団法人大学スポーツ協会の対策会を立ち上げる予定であることの説明があった。

- (9)日本学生女子ハーフマラソン新コースについて
山下誠理事から、別紙資料に基づき報告があった。

- (10)コンプライアンス委員会（倫理委員会）の設置について

永井純専務理事から、別紙資料に基づき報告があった。

また、報告の際に本連合においても設置する方向で調整を行っていく予定であることの説明があった。

- (11)2020オリンピック・パラリンピックについて
永井純専務理事から、本連合として組織委員会からの正式な依頼はまだ受けていない状況であることの報告があった。

また、報告の際に依頼があった場合は各地区学連にも対応を依頼予定であることの説明があった。

- (12)その他

栗山佳也常務理事から12月3日開催の日本陸連全国強化責任者会議で配布された資料に基づき、国際大会派遣選考要項の紹介、また女子リレーの強化に関する報告があった。

障子恵理事から、総務委員会に関することとして学生対校選手権（インカレ）に注目した広報を展開していく予定であることの報告があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16時50分、議長は閉会を宣し、解散した。

【1. 主催事業】				
年	月	日	事業名	会場
2019年	6月	7日(金)～9日(日)	2019日本学生陸上競技個人選手権大会	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)
	7月	27日(土)	秩父宮賜杯第59回実業団・学生対抗陸上競技大会 (2019オールスターナイト陸上)	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)
	9月	12日(木)～15日(日)	天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対校選手権大会	岐阜メモリアルセンター 長良川競技場
	10月	14日(月・祝)	第31回出雲全日本大学選抜駅伝競走	出雲市(島根)
		27日(日)	第37回全日本大学女子駅伝対校選手権大会	仙台市(宮城)
	11月	3日(日)	秩父宮賜杯第51回全日本大学駅伝対校選手権大会	名古屋市／伊勢市
12月	12月30日(月)	2019全日本大学女子選抜駅伝競走	富士市、富士宮市	
2020年	3月	5日(木)～7日(土)	第45回学生幹部役員研修会	(東京開催予定)
		7日(土)	日本学生陸上フォーラム2020(第65回指導者会議)	(東京開催予定)
		8日(日)	第23回日本学生ハーフマラソン選手権大会	立川市(東京)
		15日(日)	第14回日本学生20km競歩選手権大会	能美市(石川)
		15日(日)	第23回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会	松江市(島根)
【2. 主要会議】				
年	月	日	会議名	会場
2019年	5月	18日(土)	理事会	東京
	6月	15日(土)	第11回定時社員総会	東京
		〃	理事会	東京
	9月	12日(木)	理事会	岐阜市
12月	7日(土)	理事会	東京	
2020年	3月	7日(土)	理事会	東京
【3. その他主な関連事業】				
年	月	日	事業名	会場
2019年	5月	調査中	台湾国際陸上	台湾／台北市
	6月	調査中	香港インターシティー	香港
	6月21日(金)～6月23日(日)		秩父宮賜杯第72回西日本学生陸上競技対校選手権大会(共催)	京都／西京極
	未定		第41回北日本学生陸上競技対校選手権大会(共催)	札幌市／厚別
	7月	8日(月)～13日(土)	第30回ユニバーシアード(2019/ナポリ)	イタリア／ナポリ
	11月	17日(日)	ナイメーヘン・ヒルズ15kmロードレース	オランダ／ナイメーヘン
	12月	未定	日本陸上競技学会18回大会(共催)	
2020年	2月	23日(土)	第103回日本選手権大会クロスカントリー競走(共催)	福岡
	3月	1日(日)	2020東京マラソン(準エリート学生)	東京

北海道 I C : 未定(札幌／厚別で調整中)

北信越 I C : 未定(富山市にて調整中)

東海 I C : 未定(岐阜市で調整中)

中国四国 I C : 調整中(岡山市)

東北 I C : 5/17(金)～19(日)(宮城総合運動公園)

関東 I C : 5/23(木)～26(日)相模原

関西 I C : 5/9(木)・10(金)西京極/5/18(土)・19(日)鴻ノ池

九州 I C : 5/17(金)～19(日)(熊本市)

日本学生陸上競技連合（以下、日本学連）としての選考基本方針

第30回ユニバーシアード競技大会の選手団編成方針は、公益社団法人日本オリンピック委員会（JOC）が定めた派遣枠を基に、2020東京オリンピック大会へ向けた重要な国際競技会と位置づけ、世界で活躍が期待される競技者、並びにメダル獲得が期待される競技者を選考し編成する。

1. 強化委員会が設定した標準記録を突破している者を選考対象とする。
2. 一般種目および混成競技は2019年日本グランプリ プレミアの成績を基に選考する。
3. 長距離種目は（男女5000m、男女10000m、男女ハーフマラソン、男女20km競歩）は指定選考競技会以外の競技結果以外は選考資料としないが一部例外を認める。また、道路競技における標準記録は原則として扱う。
※例外とは2019年世界陸上競技選手権標準記録突破者のことを指す。
4. ハーフマラソン代表は日本学生ハーフマラソンの上位3名を基本的に候補に内定し、4位は補員とする。この補員はハーフ上位3名に対してとする。さらに辞退者が現れた場合は春季の選考競技会の結果からも選考する。ハーフマラソンは団体の部（上位3名の成績により順位づけ）でのメダル獲得も目指す。
5. 種目ごとの選手選考においては、過去の大会における入賞実績を考慮し、メダル獲得の可能性の高い種目を優先的に選考種目とする。

選考競技会および選考条件について

I. 選考競技会

1. ハーフマラソン
 - ・第22回日本学生ハーフマラソン選手権大会（2019年3月10日）
 - ・第22回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会（2019年3月17日）
2. 競歩
 - ・第13回日本学生20km競歩選手権大会（2019年3月17日）
3. 長距離種目
 - ・男女10000m 第69兵庫リレーカーニバル（2019年4月21日予定）
 - ・男女5000m 第53回織田幹雄記念国際陸上競技大会（2019年4月29日予定）
4. 一般種目（上記以外の種目）
 - ・2019日本グランプリ プレミア 第67兵庫リレーカーニバル（2019年4月21日予定）
 - 第53回織田幹雄記念国際陸上競技大会（2019年4月27日～28日予定）
 - 第35回静岡国際陸上競技大会（2019年5月3日予定）
5. 混成競技
 - ・TOKYO Combined Events Meet 2019（2019年4月20日～22日予定）

6. 選考参考競技会

- ・第87回日本学生陸上競技対校選手権大会（神奈川・等々力）

II. 選考条件

1. 2019年度日本学連登録競技者を選考対象とする。（日本学連・普通会员の資格に関する規程参照）
但し、日本国籍を有し海外の大学に留学をしている場合はこの限りではない。
なお、ハーフマラソン、競歩に関しては主要選考競技会が前年度に開催されるが、2018年度卒業生および修了生は選考対象外となる。
2. 強化委員会が過去のユニバーシアード競技結果をもとに設定した標準記録（VI. 2019ユニバーシアード派遣標準記録を参照）を突破していることが前提条件である。
3. 派遣枠数については、派遣団体である日本オリンピック委員会（JOC）により決定される。日本学連は、標準記録を突破している競技者の中からJOCの示す派遣枠内で代表選手を推薦する。
ハーフマラソンおよび競歩に関しては最大5名のエントリーが認められているが、他の一般種目は1種目2名以内と定められている。
4. 代表選手は、日本学連の理事会の承認を経て、JOC理事会にて正式決定する。

5. 原則としてIに示した上記選考競技会に出場し、特に優れた成績を収めた者を選考の対象とするが、国際試合等(国際陸上競技連盟IAAF関連の大会、日本代表選手として)に出場するため選考競技会に出場できない場合、競技実績や記録等から代表選手として選考することがある。

Ⅲ. 標準記録有効期限

1. ハーフマラソンの標準記録有効期限を以下の通りとする。

男子：2018年1月1日～2019年3月10日

女子：2018年1月1日～2019年3月17日

2. 競歩の標準記録有効期限を以下の通りとする。

男子・女子：2018年1月1日～2019年3月17日

3. 一般種目(上記以外)は、日本オリンピック委員会(JOC)へのエントリー締め切り日の関係から標準記録有効期限を以下の通りとする。

男子・女子：2018年4月1日～2019年5月3日
予定(静岡国際陸上終了日)

Ⅳ. 選考基準

1. ハーフマラソン

- 1) 標準記録を突破し、第22回日本学生ハーフマラソン選手権大会および第22回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会において上位に入賞した者の中から本大会で活躍が期待できる競技者を代表選手とする。

- 2) 5000m、10000mの選考競技会の結果、およびハーフマラソン選考競技会の結果から代表選手を追加することがある。その場合、女子はハーフマラソン選考競技会出場者のみを選考対象とする。

2. 競歩

標準記録を突破し、第13回日本学生20km競歩選手権大会において上位入賞した者の中から本大会で活躍が期待できる競技者を代表選手とする。

3. リレー種目

リレーチームの派遣は、リレーに関連する個人種目の競技成績を基にし、チーム編成・種目の兼ね合い等を考慮して選考を行う。なお、概ね関連する種目の標準記録を目安とする競技成績をもってリレーメンバーを選考する。

4. 上記(ハーフマラソン、競歩、リレー)以外の種目派遣標準記録を突破した競技者で、本大会での入賞が期待できる競技者を選考する。ただし、派遣標準記録を突破しても選考されない場合がある。

V. その他

- 候補選手として内定された後に本大会までに故障などのために競技力を十分に発揮できないと強化委員会が判断した場合には内定を取り消す。

- 男女5000m、男女10000mの選考競技会への出場資格は日本陸連グランプリシリーズと同じとする。グランプリシリーズの中での選考レースとなるため、有資格者の上位者から出場組が分かれる場合がある。

また、男子10000mにおいては、グランプリシリーズの参加標準記録を突破していなくても、日本学連の定める

ユニバーシアード標準記録(28:45:0)を突破している者の上位者(10名程度)は出場ができる場合がある。

Ⅵ. 第30回ユニバーシアード競技大会

(2019 / ナポリ)

派遣標準記録 2018/12/8

男子	種目	女子
<u>10.30</u>	100m	<u>11.65</u>
20.85	200m	<u>23.80</u>
<u>46.30</u>	400m	<u>53.00</u>
01:48.00	800m	<u>02:03.00</u>
03:43.0	1500m	04:15.0
13:43.0	5000m	<u>15:50.0</u>
28:45.0	10000m	<u>33:00.0</u>
1:04:00	ハーフマラソン	1:13:00
—	100mH	<u>13.35</u>
13.85	110mH	—
50.00	400mH	<u>57.80</u>
8:40.0	3000mSC	9:50.0
1:24:00	20kmW	1:36:00
—	4 × 100mR	—
—	4 × 400mR	—
<u>2m24</u>	走高跳	1m84
5m40	棒高跳	4m20
7m80	走幅跳	<u>6m35</u>
16m50	三段跳	13m60
<u>18m50</u>	砲丸投	15m50
57m00	円盤投	54m00
<u>70m00</u>	ハンマー投	63m50
<u>77m00</u>	やり投	56m00
—	七種競技	<u>5800点</u>
<u>7650点</u>	十種競技	—

下線太字は第29回2017/台北大会から変更があった記録
6位入賞相当を想定

※男女ハーフマラソン・男女20kmWについては、第22回日本学生ハーフマラソン選手権大会(2019年3月10日/東京・立川市)、第22回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会(2019年3月17日/島根・松江市)、第13回日本学生20km競歩選手権大会(2019年3月17日/石川・能美市)の成績により、標準記録を突破していない選手を選考することがある。

資料④

第30回ユニバーシアード（2019/ナポリ）陸上競技日本選手団基幹役員（案）

チームリーダー	栗山 佳也	大阪体育大学
監督	安井 年文	青山学院大学
総務	米田 勝朗	名城大学
副総務	青木 和浩	順天堂大学
短距離	安井(兼務)	
中長距離	米田(兼務)	
跳躍	青木(兼務)	
投擲	栗山(兼務)	
医務	金子 晴香	順天堂大学

資料⑥

ナポリ・ユニバーシアード選手選考委員会

栗山佳也	強化委員長	
片峯 隆	強化副委員長	
伊東輝雄	強化副委員長	
安井年文	強化副委員長	
山下 誠	強化副委員長	
伊東浩司	強化委員(短距離・ハードル部)	
大後栄治	強化委員(中・長距離部)	
今村文男	強化委員(競歩部)	
岡田雅次	強化委員(投てき部)	
松田克彦	強化委員(混成競技部)	
山崎一彦	強化委員	日本陸連
永井 純	専務理事	オブザーバー
大西清司	事務局長	オブザーバー
宮崎芽衣	学生幹事長	オブザーバー
黒井文香	学生常任幹事	オブザーバー

※グランプリシリーズ(選考競技会)派遣メンバーは別途検討

立川	男子ハーフ	3名内定、1名補員
栗山佳也	強化委員長	
伊東輝雄	強化副委員長	
大後栄治	強化委員	
酒井俊幸	強化委員	
永井 純	専務理事	オブザーバー
大西清司	事務局長	オブザーバー
宮崎芽衣	学生幹事長	オブザーバー

能美	名推薦	
今村文男	強化委員	
酒井俊幸	強化委員	
宮崎芽衣	学生幹事長	オブザーバー

松江	女子ハーフ	3名内定、1名補員 / 競歩 名内定
栗山佳也	強化委員長	
伊東輝雄	強化副委員長	
山下 誠	強化副委員長	
米田勝朗	強化委員	
鯉川なつえ	強化委員	
十倉みゆき	強化委員	
永井 純	専務理事	オブザーバー
黒井文香	学生常任幹事	オブザーバー

期日	JOC関連	日本文学関連/選考競技会	備考
11月13日(火)	個別折衝	<ul style="list-style-type: none"> ・グランプリ協議会に対し申し入れ ・候補者台帳の作成 	強化委員長、陸連、事務局長、他 選考要項の開示
12月8日(土) 12月19日(水) 12月21日(金)	選手強化本部常任委員会(編成数提示) 各種書類の提出(1回目) <ul style="list-style-type: none"> ・台帳 ・派遣前手続き実施希望日届出書 ・パスポートコピー ・顔写真 ・医師証明書/携行薬品リスト ・その他 	第36回理事会 <ul style="list-style-type: none"> ・派遣前手続き実施予約作業 (選ばれる可能性の高い選手の選定) ・アディショナルオフィシャル申請 	基幹役員/代表候補者リスト 他 代表選手選考委員会委員選定
2019年 1月	1/16~4/30(派遣前手続実施期間) <ul style="list-style-type: none"> ・台帳/パスポート確認 ・メディカルチェック ・公式服装採寸 ・写真撮影 ・アンチドーピング教育 ・その他 		
2月13日(水)	アディショナルオフィシャル数確定		
3月9日(土) 3月10日(日) 3月17日(日) 3月17日(日)		理事会 日本学生ハーフ選手権(立川) 日本学生20km競歩(能美) 日本学生女子ハーフ選手権(松江) ハーフ・競歩選手の派遣前手続き実施	ハーフ代表選手選考(会長一任) 20km競歩代表選手選考(会長一任) 女子ハーフ代表選手選考(会長一任)
4/20(土)~21(日) 4月21日(日) 4/27(土)~28(日)		Tokyo Combined Events 兵庫リレーカーニバル 織田記念陸上	新1年生の台帳追加作業開始 選考会エントリー選手の派遣前手続き実施 混成競技選考
5月3日(金・祝) 5月7日(火)	各種書類の提出(2回目) <ul style="list-style-type: none"> ・推薦名簿 ・在学証明書 ・スポーツエントリー ・委嘱状/派遣依頼宛先一覧 ・入離村関係書類 ・チーム荷物申告書 ・結団式関係書類 	静岡県国際陸上 レートカード提出 医薬品関係書類提出	競技会終了後 選考委員会 ※派遣前手続き未実施の選手を選んだ場合の対応 ↓ 5/7推薦名簿提出後に特別に実施予定
6月15日(土) 6月27日(木) 下旬	監督会議・メディカルスタッフ会議 支給品配布 選手村開村 結団式	定時社員総会/理事会 <ul style="list-style-type: none"> ・役員用健康調査書提出 結団式	 本隊結団式後に陸上結団式実施
7月3日(水) 7月4日(木) 暫定 7/8(月)~13(土) 7月14日(日) 7月15日(月) 7月16日(火)	開会式 陸上競技選手団出発 陸上競技実施期間 閉会式 ナポリ発 日本着	支援スタッフ派遣を予定	
8月16日(金)	報告書提出締め切り		

月日	行事（報告内容）
9月6日(木)	第35回理事会 於：リッチモンドホテルプレミア・武蔵小杉
9月6日(木)～9日(日)	天皇賜盃第87回日本学生陸上競技対校選手権大会 於：等々力陸上競技場
10月3日(水)	第36回全日本大学女子駅伝・実行委員会 於：仙台市
10月7日(日)～8日(月・祝)	第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走 於：出雲市
10月15日(月)	全日本大学駅伝・カメラ会議 於：朝日新聞社・名古屋
10月16日(火)	全日本大学駅伝・対策ミーティング 於：日本学連事務所
10月18日(木)	富士山女子駅伝実行委員会 於：富士市
10月18日(木)	指導者会議運営委員会 於：日本学連事務所
10月19日(金)	西日本経済協議会／全日本大学駅伝プロモーション 於：賢島
10月19日(金)	総務委員会・広報部会 於：日本学連事務所
10月26日(金)	第30回ユニバーシアード(2019/ナポリ)事務手続き説明会 於：岸記念体育館
10月27日(土)～28日(日)	第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 於：仙台市
10月30日(火)	全日本大学駅伝・対策ミーティング 於：ADK
11月2日(金)	秩父宮賜杯第50回全日本大学駅伝・記念パーティー 於：名古屋観光ホテル
11月3日(土)～4日(日)	秩父宮賜杯第50回全日本大学駅伝対校選手権大会 於：名古屋/伊勢
11月6日(火)	一般社団法人大学スポーツ協会・説明会 於：東京大学
11月8日(水)	富士山女子駅伝・交通対策会議 於：富士市
11月8日(水)	富士山女子駅伝・事務局会議 於：富士市
11月9日(金)	日本陸連・協力団体6者協議会 於：日本陸連事務局
11月10日(土)～11日(日)	第17回日本陸上競技学会(共催) 於：桐蔭横浜大学
11月12日(月)	総務委員会 於：日本学連事務所
11月13日(火)	第30回ユニバーシアード(2019/ナポリ)個別折衝 於：岸記念体育館
11月14日(水)～20日(火)	オランダ・ナイメーヘン(7ヒルズ15K)派遣 於：ナイメーヘン市
11月16日(金)	富士山女子駅伝・静岡県/プレス発表 於：静岡市
11月16日(金)	大学スポーツ協会/スポーツ庁ミーティング 於：日本学連事務所
11月19日(月)	指導者会議運営委員会 於：日本学連事務所
11月22日(木)	全日本大学女子駅伝・事務局会議 於：日本学連事務所
11月26日(月)	2019東京マラソン・事務手続き打合ミーティング 於：日本学連事務所
11月28日(水)	全日本大学女子駅伝・実行委員会 於：仙台市
11月28日(水)	富士山女子駅伝・事務局会議 於：日本学連事務所
11月28日(水)	日本スポーツ振興センター 平成31年度募集説明会 於：日本青年館
11月30日(金)	第19回企画委員会 於：日本学連事務所
12月8日(土)	平成30年度学生会議 於：TKP品川カンファレンスセンター
12月8日(土)	平成30年度栄章/日本学生新記録章贈与式 於：TKP品川カンファレンスセンター
12月8日(土)	第36回理事会 於：TKP品川カンファレンスセンター

【各地区学連出場枠について】

以下の配分方法により、毎年各地区学連からの出場枠を決定する。

1. 基本枠(8) 各地区学連には、基本枠として1枠ずつを配分する。
2. 成績枠(12) 前年度大会で1位～12位のチームの所属する地区学連の数を出場枠として配分する。
 - (注1) 出場枠が1の学連においては、出場資格を「選抜チーム」または「単独校チーム」のどちらかを選ぶことができる。出場枠が2以上の学連においては、「単独校チーム」のみとなる。
 - (注2) ひとつの地区学連の出場枠は最大で10(基本枠・成績枠の合計)とする。出場枠が10を超えた地区学連は、超過分の成績枠を13位のチームの所属する地区学連に譲ることとなる。
 - (注3) アイビーリーグ選抜が12位以内の場合は13位のチームの所属する地区学連に成績枠を配分する。

1. 成績枠の配分

第30回大会結果		
1	青山学院大学	関東
2	東洋大学	関東
3	東海大学	関東
4	拓殖大学	関東
5	帝京大学	関東
6	中央学院大学	関東
7	立命館大学	関西
8	城西大学	関東
9	日本体育大学	関東
10	早稲田大学	関東
11	アイビーリーグ選抜	
12	法政大学	関東
13	京都産業大学	関西
14	皇學館大学	東海

→

次回 第31回大会出場枠	
成績枠	関東 1
	関東 2
	関東 3
	関東 4
	関東 5
	関東 6
	関西 1
	関東 7
	関東 8
	関東 9
	関東 10 (関東超過分)
	関西 2
東海 1	

→

2. 第31回大会各地区学連出場枠について

地区	第31回大会			第30回大会 出場枠数
	出場枠数	基本枠	成績枠	
北海道	1	1	0	2
東北	1	1	0	1
関東	10	1	9	10
北信越	1	1	0	1
東海	2	1	1	1
関西	3	1	2	3
中四国	1	1	0	1
九州	1	1	0	1
合計	20	8	12	20

【各地区学連出場枠について】

以下の配分方法により、毎年各地区学連からの出場枠を決定する。

1. シード枠(8) 前年度大会で1位～8位に入った大学には、出場シード権を与える。
 2. 基本枠(8) 各地区学連には、基本枠として1枠ずつを配分する。
 3. 成績枠(9) 前年度大会で9位～17位のチームの所属する地区学連の数を出場枠として配分する。
- (注) その他、大会主催者の認める選抜チームのオープン参加を認める場合がある。

1. シード枠及び成績枠の配分について

第36回大会結果		
1	名城大	東海
2	大東文化大	関東
3	立命館大	関西
4	東京農業大	関東
5	松山大	中国四国
6	京都産業大	関西
7	大阪学院大	関西
8	大阪芸術大	関西
9	東洋大	関東
10	玉川大	関東
11	日本体育大	関東
12	関西大	関西
13	関西外国語大	関西
14	城西大	関東
15	佛教大	関西
16	東北福祉大	東北
17	順天堂大	関東

→

次回 第37回大会出場枠	
シード枠	名城大
	大東文化大
	立命館大
	東京農業大
	松山大
	京都産業大
	大阪学院大
	大阪芸術大
成績枠	関東 1
	関東 2
	関東 3
	関西 1
	関西 2
	関東 4
	関西 3
	東北 1
	関東 5

→

→

2. 第37回大会各地区学連出場枠について

地区	第37回大会				第36回
	計	シード枠	基本枠	成績枠	
北海道	1	0	1	0	1
東北	2	0	1	1	2
関東	8	2	1	5	8
北信越	1	0	1	0	1
東海	2	1	1	0	2
関西	8	4	1	3	7
中国四国	2	1	1	0	2
九州	1	0	1	0	2
合計	25	8	8	9	25

【各地区学連出場枠について】

以下の配分方法により、毎年各地区学連からの出場枠を決定する。

1. シード枠 (8) 前年度大会で1位～8位に入った大学には、出場シード権を与える。
2. 基本枠 (8) 各地区学連には、基本枠として1枠ずつを配分する。
3. 成績枠 (9) 前年度大会で9位～17位のチームの所属する地区学連の数を出場枠として配分する。

(注1) ひとつの地区学連の出場枠は最大で15(シード枠・基本枠・成績枠の合計)とする。

出場枠が15を超えた地区学連は、超過分の成績枠を18位のチームの所属する地区学連に譲ることとなる。

(注2) その他、大会主催者の認める選抜チームのオープン参加を認める場合がある。

1. シード枠及び成績枠の配分について

第50回大会結果			→	次回 第51回大会出場枠	
1	青山学院大	関東	→	シード枠	青山学院大
2	東海大	関東			東海大
3	東洋大	関東			東洋大
4	駒澤大	関東			駒澤大
5	帝京大	関東			帝京大
6	國學院大	関東			國學院大
7	法政大	関東			法政大
8	城西大	関東			城西大
9	明治大	関東	→	成績枠	関東 1
10	神奈川大	関東			関東 2
11	日本大	関東			関東 3
12	日本体育大	関東			関東 4
13	順天堂大	関東			関東 5
14	中央学院大	関東			関東 6
15	早稲田大	関東			関東 (超過)
16	立命館大	関西			関西 1
17	京都産業大	関西			関西 2
18	皇學館大	東海			東海 (関東超過分)

2. 第51回大会各地区学連出場枠について

地区	第51回大会				第50回
	計	シード枠	基本枠	成績枠	
北海道	1	0	1	0	1
東北	1	0	1	0	1
関東	15	8	1	6	15
北信越	1	0	1	0	1
東海	2	0	1	1	2
関西	3	0	1	2	3
中国四国	1	0	1	0	1
九州	1	0	1	0	1
合計	25	8	8	9	25

<第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走>

フジテレビ系列

関東 フジテレビ 8.3% (前年比+1.5)

東海 東海テレビ 7.1% (前年比+0.8)

関西 関西テレビ 6.9% (前年比+1.6)

山陰中央テレビ 12.2% (前年比-0.3)

<第50回全日本大学駅伝対校選手権大会>

テレビ朝日系列

08:05~13:40 視聴率11.6% 歴代2位!(94年以来24年ぶりの高さ)

※昨年:11.0%(去年比+0.6%)

<第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会>

日本テレビ系列

●テレビ視聴率

関東 7.9%(昨年比-2.6ポイント)※仙台開催で歴代8位

宮城 14.9%(昨年比-4.8ポイント)※同歴代3位

■参考

	35回	34回
関東	10.5% (前年比+2.1ポイント)※同過去最高	8.4% (昨年比+1.5ポイント)
宮城	19.7% (前年比+6.0ポイント)※同過去最高	13.7% (昨年比±0ポイント)

■参考:沿道人数 約85,000人

※35回約60,000人、34回約83000人、33回約80,000人

1. 選手が競技続行困難な状況になった場合

競技途中で競技を続行することができない状態になった時、大会医務員(医師)及び審判長から走行の中止が命じられた場合は、直ちにその指示に従わなければならない。

チーム責任者から棄権の申告があった場合も同様とする。また、突発的な事故により審判員が以後の競技実行が困難であると判断した場合(当該競技者の意思確認が不能な場合も含む)にはその時点で直ちに救護する。

その場合は、当該チームのその区間の競技を無効とする。(審判長の指示を中継所主任が代行する場合がある。)この場合、当該チームの全体の記録と成績は認められない。無効となった区間以降の記録は参考記録扱いとする。なお、再スタートの時期は、最終チームの走者と同時とする。

る。

(繰上げスタートが実施される場合はそれと同時にスタート)【審判要項 注意事項6項⑤、⑥から引用】

2. 選手が競技続行を望んだ場合における棄権の判断

①大会医務員(医師:救護車両)が走行中止を命じる。走行困難選手への対応

- 走行困難と判断した時、救護車は速やかに当該選手のもとに向かい、医師による救護を行い、中止を命じる。
- 救護措置が一段落した後、あるいは医師以外の審判員が現場から大会本部責任者に電話連絡
- 大会本部責任者から審判長など必要部署へ電話連絡
- 大会本部責任者は、該当チーム責任者と連絡を取る。

<電話連絡マニュアルの作成>

- ②チーム責任者が棄権を申告する
走行困難選手への対応
- A. チーム責任者が「走行中止、棄権の判断」
 - B. チーム責任者から大会本部責任者に電話連絡、判断を確認
 - C. 大会本部責任者から、走路審判員・中継所主任に電話連絡
 - D. 走路審判員・中継所主任が速やかに選手に伝達、中止を命じる。
 - E. 救護措置が必要な場合は、大会本部責任者と連絡を取り、救急車出動要請あるいは近くにいる医師を急行させ、救護にあたる。
 - F. 走行中止を選手に伝達し、選手が走行中止したこと、選手の状況を大会本部責任者に連絡。
 - G. 大会本部責任者は、該当チーム責任者と連絡を取る。

<大会本部とチーム責任者の 電話連絡マニュアルの作成>

①、②については、同時進行で連絡を速やかに行う。

- ③走路審判員・中継所審判員が判断
走行困難選手への対応
- A. 走路審判員は、選手の走行状態を確認し、異変に気付いた時点で大会本部責任者に連絡。
 - B. 大会本部責任者は、該当チーム責任者と連絡を取り、状況を確認する。必要があれば、救護者を急行させ、到着予定の中継所主任と連絡を取る。
 - C. 走路審判員が競技続行を困難であると判断した場合は、直ちに走行中止を伝え、救護する。審判員の判断はいかなる場合でも尊重される。
 - D. 走行中止を伝えた審判員は、選手の救護にあたり、近くにいる審判員の応援を要請する。救護措置が一段落した後、大会本部に走行中止した旨を速やかに連絡する。
 - E. 大会本部責任者は、該当チーム責任者と連絡を取る。

※速やかに連絡することも重要だが、選手の救護活動が最優先であることを認識し、一人で対応するのではなく、近くにいる審判員としっかり連携を取り、状況を判断しながら行動することが重要です。選手が一人になることだけは絶対にしないで

ください。

□競技を棄権した場合のチームへの対応

1. チーム全体の記録と成績は認められない。
2. 競技を棄権した区間は無効とする。
3. 無効となった区間以前の当該チーム各区分選手の記録は正式記録とする。
4. 無効となった区間の次の区間走者から競技を実行することができるがオープン参加となり、以降の区間記録は参考記録扱いとなる。
5. 無効となった区間の次の区間走者のスタートは、最終チームの走者と同時とする。(繰上げスタートが実施される場合はそれと同時スタートとする)

<競技会運営において>

1. 将来、標準記録ではなくランキングポイントで
出場資格獲得に変更

- ・ドーハ世界選手権2019は、ワールドポイントランキング制度採用を断念。



- 従来と同じ標準記録にて参加資格獲得
- ・東京オリンピック2020は、現在未定。

2. 競技会の記録がランキングポイントに反映される
ためには

⇒競技会のリザルトがIAAFに提出されなければならない。

- ※トラック&フィールドは日本陸連公認競技会。ロードはIAAF認証コースで実施された日本陸連公認競技会。競歩は加えて、IRWJ(国際競歩審判員)が3名以上。

重要 リザルトに必要なこと

国内競技会でもリザルトの国際化は急務

- ・競技会名が英語
- ・競技実施場所が英語
- ・競技者名が英語
- ・種目名が英語
- ・ラウンド種別が英語
- ・国名

(日本陸連の対応)

※2018年度よりすでに日本陸連が英語に手直しし、IAAFに提出(時間のロスが生じた)

※2019年度以降:

- ①登録システムの変更
- ②情報処理会社への説明と仕様の変更
- ③競技会や競技実施場所の英語名一覧の発行

<外国人競技者の扱い/>

学連登録競技者または未登録競技者>

3. ワールドランキング制導入により生じた諸問題
点(日本陸連のIAAF申請作業において)

- 1 外国籍競技者の国籍が不明
- 2 外国籍競技者の正しい英語名が不明
- 3 外国籍競技者が日本で競技していることを母国の陸連が知らない

- ・日本で生まれ育った外国籍競技者
- ・日本のチームに所属する外国籍競技者
- ・日本の競技会に参加した外国籍競技者

4. 外国人競技者の学連主催権による開催競技会参加資格について

※加盟大学が実施する記録会等に学連登録者ではない外国人が参加する場合を想定。

(参加資格 ルールブック15ページ)

6. 外国人競技者は、その者の所属する国のIAAF加盟団体から競技者資格および競技会参加許可に関する証明書を得て、これを提出すれば本連盟が公認する競技会にその競技会の規定に基づき出場することができる。

⇒各国陸連発行の参加許可書の提出先は日本陸連。

(公認競技会規程 ルールブック379ページ)

第5条 公認競技会には、本連盟登録会員規程に定める登録会員のみが競技者として参加できる。ただし、以下の者についてはこの限りではない。

①②省略

③主催者が認めた外国人競技者

2. 公認競技会には次の各号に該当する者は参加を認められない。

①②省略

③外国人競技者にあたってはその者の属する国のIAAF加盟団体から**競技者資格および競技会参加許可に関する証明書**を得ていない者。

⇒【規定の解釈】出場を認めるのは主催者。ただし各陸連発行の参加許可書に関する証明書

日本陸連に提出しなければならない(学連登録者は以下参照)

<学連登録において>

前述の諸問題を回避するために、これまでうやむやであった外国人(外国籍)競技者に関する諸規程の遵守。

【日本陸連・登録会員規程】

(外国人登録)

第11条 日本に居住している外国人は、都道府県陸協の**審査**を経て本連盟の登録会員となることができる。ただし、中学生登録、高校生登録、大学生登録に関しては、中体連、高体連、**日本学連の規程による**。外国人の登録は、本来所属すべき国またはテリトリー（領土）の陸上競技連盟の**事前承認**なしに登録することはできない。

⇒各国陸連発行の事前承認書は、日本陸連に提出しなければならない。

⇒2019年から陸連登録において、国籍記入は必須事項となる。エリート競技者（母国を代表したり、世界ランキング対象となりえる競技者）についてはパスポートコピーの添付も検討中。（陸連）

【日本学連・普通会员の資格に関する規程】

（資格に係る特別要件）

第3条 前条の資格のほか、次の各項に該当する者は、必要な手続きを行うものとする。

- 2 日本国以外の国籍を持つ大学等の学生は、公益財団法人日本陸上競技連盟（以下、「日本陸連」という。）から競技者資格及び競技会参加許可を証明する書類を添えてこの法人に入会しなければならない。ただし、1年以上日本国に在住し、かつ母国の陸上競技連盟に登録したことの無い者はこの限りではない。

※規程の解釈

- ・各国発行の事前承認書を自ら入手、または日本陸連を経て入手し、入会時に添付する。
- ・在住1年未満は母国の陸上競技連盟発行の事前承認書が必要。

※規程の改定検討

- ・母国の陸上競技連盟に登録したことの無い者が学連登録をする場合、日本陸連を通じて入手する必要があるかどうか検討。
- ・外国人登録に係る登録規程について、ワールドランキング制度を鑑み、わかりやすくするための改正を今後検討。

平成30年 学生役員会議

副幹事長 宮崎 芽衣

期 日：2018年12月8日(日) 12:30～14:00

場 所：TKP品川カンファレンスセンター
カンファレンスルーム4A

各地区学連の新旧幹部役員が集い、恒例の学生役員会議が開催されました。本連合の年度末は3月31日ですが、4年生学生役員の活動は、後輩への引き継ぎの関係で基本的に12月31日をもって終了となります。会議は、新旧幹部役員の引き継ぎとともに、平成31年1月～3月に行う大会や事務関係の研修が行われました。また、理事会後に理事・学生等を交えた役員懇親会・卒業学生役員を送る会を行ないました。松本正之会長のご挨拶があり、卒業予定の学生役員に記念品が贈られました。また1人ひとりから学連活動を通じた思い出や、今後の進路などが述べられました。最後に青葉副会長より労いのお言葉をいただき、盛会の内に終了致しました。

【会議報告】

1. 平成31年の学生役員について

次年度4年生の宮崎芽衣が幹事長に推薦され、理事会に提案されることとなりました。

2. 事務手続きについて

年度始めに必要な正会員の名簿や、各地区学連に書類提出を依頼しました。

3. 平成31年2～3月の日本学連主催・共催大会について

平成31年2～3月に行われる日本学連主催・共催競技会4大会について、エントリー等の事務作業についての説明がなされました。

4. 普通会員登録について

基本の学連登録作業に加え、スポーツ安全保険の適用について説明しました。年々増加していく登録会員を1人も取りこぼすことがないように登録業務のルールへの厳守と正確さを改めて確認しました。

5. 公認競技会申請及び記録公認申請について

2月に締切となる来年度最初の公認競技会申請について、申請方法の周知や注意事項の徹底がなされるとともに、記録の電子申請などを中心に、公認競技会申請及び記録公認申請の全体的な流れが説明されました。

6. 学生幹部役員研修会について

平成31年3月に行われる学生幹部役員研修会までの作成物や、協議内容案について各地区学連に提案、また意見交換を行いました。

■平成31年度学生役員一覧

役職	氏名	フリガナ	大学	学年	地区
幹事長	宮崎 芽衣	ミヤザキメイ	日本女子体育大学	4	連合
副幹事長	二見 百香	フタミモモカ	日本体育大学	3	連合
常任幹事	黒井 文香	クロイフミカ	駒澤大学	4	連合
常任幹事	古屋敷律希	コヤシキリツキ	日本体育大学	2	連合
常任幹事	増野 巽哉	マスノタツヤ	東北大学	3	東北
常任幹事	岡野 将成	オカノマサナリ	三重大学	4	東海
幹事	柴田 曜	シバタヨウ	北海道大学	3	北海道
幹事	宮川 森	ミヤガワモリト	東北学院大学	3	東北
幹事	森 菜々穂	モリナナホ	早稲田大学	4	関東
幹事	松重 美穂	マツシゲミホ	駒澤大学	4	関東
幹事	山田 幸輝	ヤマダコウキ	神奈川大学	3	関東
幹事	伊藤 舜	イトウシュン	千葉大学	4	関東
幹事	笹森 風花	ササモリフウカ	順天堂大学	4	関東
幹事	伊藤 悠人	イトウユウト	信州大学	2	北信越
幹事	坂入 慶一	サカイリケイイチ	愛知教育大学	4	東海
幹事	堀口 景祐	ホリグチケイスケ	愛知教育大学	4	東海
幹事	宇野 智希	ウノトモキ	中京大学	3	東海
幹事	三田村侑紀	ミタムラユウキ	京都大学	4	関西
幹事	佐々木 努	ササキツトム	関西学院大学	4	関西
幹事	中沢 亮	ナカザワリョウ	大阪市立大学	3	関西
幹事	蒲生 郷	ガモウゴウ	広島大学	3	中国四国
幹事	樹本 真優	キモトマユ	西南学院大学	3	九州

※学生役員任期：平成31年1月1日～平成31年12月31日

※学年は、平成31年度（4月1日以降）の学年

平成30年度日本学生陸上競技連合 卒業予定の学生役員送別会を開催

1. 日時：平成30年12月8日（土）
2. 場所：TKP品川カンファレンスセンター

平成31年3月に卒業を予定している日本学連学生役員の送別会を開催しました。日本学連の蔵並幹事長をはじめ、8地区学連で活躍された幹事の皆様に対し、松本会長から学連を支えていただいた感謝のお言葉と社会人としてのエールをいただき、1人ひとりに記念品が贈られました。

平成31年3月卒業予定の学生役員の送別会が行われた



平成30年日本学生新記録章贈呈式を開催

1. 日時：平成30年12月8日(土) 14:30～14:50
2. 場所：TKP品川カンファレンスセンター4階4J

平成30年に日本学生新記録を樹立した以下の選手及び指導者に対し、日本学連・松本会長より、章記と報奨金が贈呈されました。

●山西 利和(やまにし としかず)

(京都大学)男子20km W：1時間17分41秒(2018年2月18日)
第101回日本陸上競技選手権大会20km競歩兼ジャカルタ2018アジア競技大会日本代表選手選考

競技会

指導者：京都大学陸上競技部

監督 紀平 直人(きひら なおと)

●日本体育大学

湯浅 佳那子(ゆあさ かなこ)

福田 真衣(ふくだ まい)

広沢 真愛(ひろさわ まえ)

山田 美来(やまだ みく)

女子4×100m R：44秒59(2018年9月7日)

天皇賜盃第87回日本学生陸上競技対校選手権大会

指導者：日本体育大学陸上競技部

総監督 大村邦英(おおむら くにひで)



日本学生新記録章を受章した選手、指導者たち

鉄剤の注射について

医事委員会委員長 蒲原 一之

貧血に対する鉄剤投与の現状

最近、アスリートに対する鉄剤の注射が大きな問題となっています。2016年4月に日本陸上競技連盟が「アスリートの貧血対処7か条」を発表し、安易な鉄剤注射を行わないよう警告を出しましたが、読売新聞の記事によると、その後も鉄剤注射はかなり行われていたらしく、「全国高校駅伝大会」の2016年～2018年の女子出場校76校に対するアンケート調査において、鉄剤注射を行ったことがあると回答した学校が17校で2割超に上りました。

鉄欠乏性貧血に対する治療の原則

一般に貧血の原因として最も多いのは鉄血欠乏性貧血であり、これはアスリートにおいても同様です。対処として、まずは食事から鉄の摂取量を増やす食事療法が行われることが原則ですが、それだけでは改善が不十分な場合は、治療として鉄剤を投与することはよく行われます。

しかし、その場合でも経口薬（飲み薬）の投与が原則です。消化管の疾患があって吸収が極端に悪い場合や、消化器系の副作用で経口薬が使用できない場合、あるいは多量の出血によって鉄分の喪失が顕著な場合などは鉄剤の注射（点滴）が行われることがあります。その必要があるケースはごく稀です。

鉄剤注射の問題点

鉄剤の注射がめったに行われないのは、次のような問題があるからです。

- ①直接血管内に入るため、鉄過剰になりやすい。
- ②鉄過剰になると、鉄は肝臓、心臓、すい臓などの臓器に沈着し、臓器障害を引き起こす恐れがある。
- ③鉄過剰になると、その後の鉄吸収障害を招く可能性がある。
- ④血液中のリンが減ることになり、その結果として骨が弱くなり、疲労骨折しやすくなる。
- ⑤ドーピング違反に問われる可能性がある。

以上のようなことから、アスリートの競技者生命にもかかわってくると考えられます。

今後の動向

日本陸上競技連盟では鉄剤注射を原則禁止にするガイドライン（指針）を2019年春までにまとめる方針で、一部の大会では選手の血液検査結果報告書の提出や、鉄剤注射をした場合は理由を明記した申告書の提出を求められることとなります（「全国高校駅伝大会」では2019年の大会から出場校に実施されることになったようです）。また、指導者や医師に対する啓発活動も行っていくことになっています。

日本学生陸上競技連合の主催大会では、血液検査の結果報告書の提出などは今のところ考えていませんが、今後の展開次第では変更があるかもしれません。

ブランド化でさらなる活性化を構想

総務委員会 障子 恵

学生陸上競技界は年々おもしろくなっている。

昨年度の学生陸上界では、男子100mで追い風参考を含めて2度、9秒台の好記録が誕生した。なかでも、日本インカレで東洋大学の桐生祥秀選手（現・日本生命）が9秒98の日本記録を樹立したことは、スポーツに関心の薄い一般の方にも大きなインパクトを与えた。

これらの記録誕生が契機になり、昨年度から日本記録、日本学生記録樹立者とその指導者に栄章を授与している。昨年度は日本記録の男子100m、日本学生記録の女子800m、女子やり投、女子七種競技の4種目を表彰。今年度は男子20km競歩、女子4×100mリレーの日本学生記録樹立者、チームに栄章を授与した。

2017年8月に開催されたユニバーシアード台北大会では、過去最多の金メダル7個を獲得し、メダル総数も16個（銀2、銅7）を数えた。今や学生が陸上競技界の起爆剤になっていると言っても過言ではない。

活況を呈している学生陸上界をさらに盛り上げようと、総務委員会では広報活動の強化策を模索している。

本連合と各地区学連で開催する競技会は、大きく分けると「大学対校選手権（以下インカレ）」「駅伝」「ロードレース」の3部門。これらを効果的に広報するために、各部門のブランディングを検討している。

中でもインカレは、母校の名誉を担って競う特有の大会であり、非常に盛り上がる競技会である。これをひとつの文化として捉え、『インカレ』としてブランド化する。地区インカレの結果は現在、開催地区学連のホームページを検索しなければ詳細がわからないが、これを連合ホームページに統合する『インカレ』のページを作成し、競技会の情報をリアルタイムで掲載する構想だ。その他、共通ロゴやハッシュタグ、キャッチフレーズをデザインして掲載することも検討している。

2018年度の普通会員数は4年連続で2万人を超え、本連合は学生スポーツ団体として最大規模を誇る。インカレのブランド化を進めることで連合・地区学連が一体となり、学生陸上競技界がさらなる発展を遂げるよう戦略的に支援したい。

2018年度後期強化委員会の活動について

強化委員長 栗山 佳也

2018年もあとわずかとなりました。9月に行われた日本学生対校選手権大会以降の活動を振り返り、10月8日の第30回出雲全日本大学選抜駅伝、28日の仙台市での第36回全日本大学女子駅伝、11月4日の名古屋・熱田神宮～伊勢市・伊勢神宮間での第50回全日本大学駅伝記念大会など、大会の節目に当たる駅伝大会が開催されました。これらの大会運営にあたり関係者の皆様のご協力・ご支援のもと盛会に終えることができましたことに感謝とお礼を申し上げます。また、12月30日には富士市、富士宮市での2018全日本大学選抜女子駅伝が予定されており、日本学連が主催する駅伝の4大会が終了することになります。

特に、第50回全日本大学駅伝記念大会では50回目を契機に、前半部分での繰り上げスタートが出ないような配慮とレース展開をおもしろくするための方策として、第1区から第6区までの6区間に於いて平均約11kmの距離にするため中継所が変更になりました。今回のレース展開の予測と結果を踏ま

え、大会を盛り上げるための方策などさらに検討を重ねていかなければならないと思われま

す。2019年7月にはユニバーシアード大会（2019・ナポリ）が開催されます。2019年3月には競歩、男女ハーフマラソンの選手選考会及び内定、4月から5月上旬にはグランプリシリーズで一般種目の選考及び選考会議を経て出場選手が内定する予定となっています。強化委員会では前回大会よりさらに良い成績をあげるための準備を進めているところですが、情報では現地宿泊施設が少ないなどの理由から大会規模が縮小されるとのことで、必然的にJOC派遣枠が減る可能性があります。そのような事情もありますが、日本が確実にメダルが取れる種目、入賞できる種目を厳選し、最高・最強のチームを編成したいと考えています。

2020年東京オリンピックを目前に控え、若手学生アスリート達にとってユニバーシアードが世界へ羽ばたくための貴重な踏み台となり、ビッグチャンスとなることを願っています。

平成30年度 第64回指導者会議開催要項

個人選手権大会のあり方を考える — 検証と課題 —

日本学生陸上競技連合では、日本陸上競技界の発展のため、毎年「指導者会議」の名の下、シンポジウムや講演等を通じて競技者の強化に関するさまざまな課題について考えてきました。

過去4回の指導者会議のパネルディスカッション・討論のテーマは次の通りでした。

- 1) 第60回指導者会議(日本学生陸上フォーラム2015):「2020年東京五輪に向けた日本学連の強化策を考える—いま、何が課題か 夢を語る 未来を語る—」
- 2) 第61回指導者会議(日本学生陸上フォーラム2016):日本実業団陸上競技連合と日本学連の相互協力をキーワードとして学生アスリートの就職支援や就職後の練習環境支援に関するテーマ
- 3) 第62回指導者会議(日本学生陸上フォーラム2017):リオ代表(オリンピック/パラリンピアン)の現役学生アスリートとベテラン社会人アスリートをパネリストとして迎え、「大きな舞台に出場して見えてきたもの」「学生時代

にやっておくべきことは何か」のテーマ

- 4) 第63回指導者会議(平成29年度ユニバーシアード強化研究会):「ユニバーシアード競技大会台北2017の検証と今後の課題」

今回の第64回指導者会議は、上記会議の成果等も参考としながら、日本学連が主催する日本学生個人選手権大会に焦点を置きます。会議の目的は、今後の日本学生個人選手権大会のあり方を考えるために、中長期的な視点に立ったアジアパーミット大会の開催も視野に入れながら、現状の検証を行って今後の課題を明らかにすることにあります。各演者には検証の視点(注1)と資料(注2)を参考にして発言してもらいます。また、進行についてはフロア(指導者や学生幹事ら)も含めて活発な意見交換の場になるように努めます。

注1) 検証の視点:個人選手権の特徴、個人選手権の競技運営2018

注2) 参考資料:個人選手権の歩み、日本ICと個人選手権の関係、IAAFランキング制度、アジアパーミット大会

記

1. 主催:公益社団法人日本学生陸上競技連合
2. 日時:2019年(平成31年)3月9日(土)(理事会終了後)
受付 15:00~15:30、会議 15:30~17:00(90分)
3. 会場:中央大学駿河台記念館 670号
4. 対象:日本学生陸上競技連合関係者(地区学連、加盟校等)、陸上競技愛好者(大学等)
5. 定員:120名
6. 司会:障子 恵氏(跡見学園女子大学、学生連合/理事・総務委員長・指導者会議運営委員)
7. コーディネーター:船原 勝英氏(共同通信社、学生連合/指導者会議運営委員)
8. 演者(順不同):宮崎芽衣氏(日本女子体育大学、学生幹事長)
二見百香氏(日本体育大学、学生副幹事長)
栗山佳也氏(大阪体育大学、学生連合/常務理事・強化委員長)
関根春幸氏(東京都立世田谷総合高等学校、学生連合/常務理事・競技委員長)

以上

平成30年度 日本学生陸上競技連合 会員について(2018年度)

正会員 135名 普通会員 20,742名 賛助会員 9名

日本学生陸上競技連合 普通会員の各月変遷 単位：人

	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中四国	九州	月合計
年度前	253	712	6,573	245	1,399	3,048	1,227	910	14,367
4月	361	232	1,296	634	369	452	332	596	4,272
5月	86	36	258	111	118	184	195	191	1,179
6月	9	20	169	17	134	74	37	36	496
7月	6	3	165	8	34	25	26	17	284
8月	3	3	13	4	9	4	12	7	55
9月	8	11	16	6	6	8	1	2	58
10月	0	0	7	0	1	19	5	17	49
11月	0	0	4	0	3	2	0	1	10
12月	0	1	0	0	0	0	0	1	2
二重登録	0	0	-6	0	0	-2	-2	-1	-11
退会者	0	-1	-8	-1	0	-6	-1	-2	-19
合計	726	1,017	8,487	1,024	2,073	3,808	1,832	1,775	20,742

増員数(9/6報告) 125名

【参考:普通会員数の推移】

平成30年12月4日現在

単位：人

年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中国四国	九州	合計	前年比	5年前比	10年前比
2018	726	1,017	8,487	1,024	2,073	3,808	1,832	1,775	20,742	-41 ↓	2,168	4,085
2017	749	973	8,588	1,009	2,098	3,758	1,853	1,755	20,783	86 ↑	2,609	4,450
2016	756	933	8,578	1,009	2,088	3,689	1,884	1,760	20,697	607 ↑	2,819	4,483
2015	705	943	8,221	1,021	2,007	3,547	1,904	1,742	20,090	634 ↑	2,849	4,269
2014	680	929	7,981	965	1,936	3,507	1,843	1,615	19,456	882 ↑	2,604	4,230
2013	628	914	7,547	903	1,835	3,383	1,781	1,583	18,574	400 ↑	1,917	3,991
2012	640	910	7,273	832	1,826	3,360	1,736	1,597	18,174	296 ↑	1,841	3,969
2011	711	933	7,065	834	1,756	3,236	1,723	1,620	17,878	637 ↑	1,664	3,929
2010	688	919	6,792	821	1,686	3,106	1,653	1,576	17,241	389 ↑	1,420	3,374
2009	715	878	6,641	879	1,611	3,000	1,630	1,498	16,852	195 ↑	1,626	2,920
2008	754	952	6,626	822	1,480	2,923	1,598	1,502	16,657	324 ↑	2,074	
2007	651	977	6,497	799	1,426	2,870	1,520	1,593	16,333	119 ↑	2,128	
2006	651	1,005	6,452	743	1,493	2,829	1,471	1,570	16,214	393 ↑	2,265	
2005	636	1,041	6,258	763	1,429	2,728	1,441	1,525	15,821	595 ↑	1,954	
2004	599	984	6,118	751	1,321	2,605	1,410	1,438	15,226	643 ↑	1,294	
2003	587	885	5,864	749	1,257	2,519	1,311	1,411	14,583	378 ↑		
2002	604	841	5,663	755	1,184	2,478	1,259	1,421	14,205	256 ↑		
2001	617	811	5,604	685	1,123	2,486	1,258	1,365	13,949	82 ↑		

2018年度	男子	女子	合計	前年比	比率(%)
北海道	567	159	726	-23	3.5
東北	752	265	1,017	44	4.9
関東	6,549	1,938	8,487	-101	40.9
北信越	801	223	1,024	15	4.9
東海	1,513	560	2,073	-25	10.0
関西	2,679	1,129	3,808	50	18.4
中国四国	1,415	417	1,832	-21	8.8
九州	1,362	413	1,775	20	8.6
全体	15,638	5,104	20,742	-41	

2017年度	男子	女子	合計
北海道	598	151	749
東北	737	236	973
関東	6,651	1,937	8,588
北信越	783	226	1,009
東海	1,554	544	2,098
関西	2,657	1,101	3,758
中国四国	1,435	418	1,853
九州	1,348	407	1,755
全体	15,763	5,020	20,783

平成30年度 賛助会員 (1月15日現在 順不同、敬称略)

ご入会ありがとうございました

小池 七郎 佐藤 良男 石黒 成彬 佐野 伊三夫
入江 毅 田中 淳浩 北井 敏雄 菅原 明義 佐沼 洋

賛助会員募集中

この法人の目的及び活動に賛同し賛助する個人又は団体の方は、是非ご検討ください。

〈年会費〉 賛助会員 ¥10,000 (1口)

※年会費は毎年納入していただく必要があります、年度内(3月31日)まで有効となります。

※本法人への賛助会費は寄付として扱われ、所得税等の納税控除の対象となります。

〈特典〉 ・会報への氏名・団体名の記載

・天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会への無料入場

〈入会手続きについて〉

①申込書(個人・団体)に必要事項を記入し、本法人へ郵送又はFAXしてください。



②本法人の指定銀行口座へ、年会費をお振込み願います。



③ご入金が確認でき次第、本法人の賛助会員として登録させていただきます。

何かご不明な点がございましたら、下記事務局までお問い合わせください。

[発行所] 公益社団法人 日本学生陸上競技連合
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

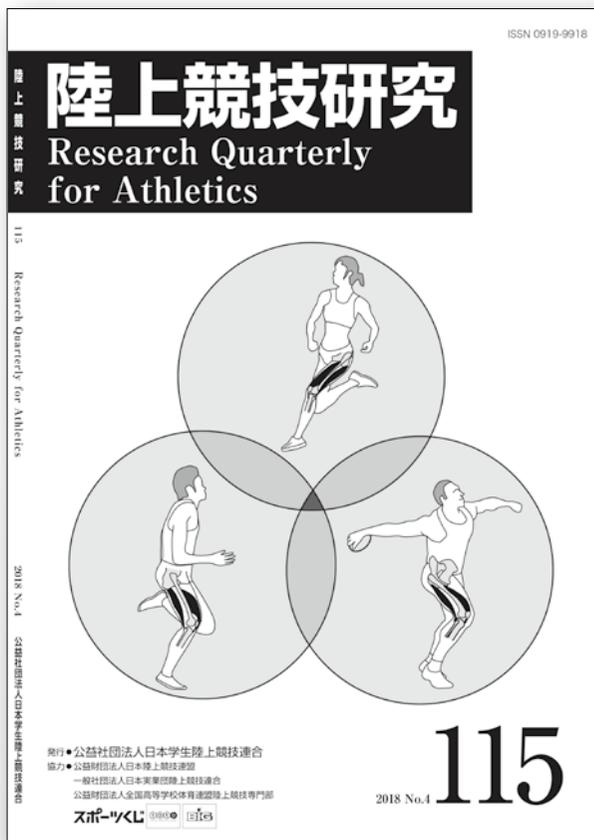
編集後記

川崎等々力陸上競技場で行われました第87回日本学生陸上競技対校選手権大会も無事終了し、その後、10月8日に第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走が開催され、青山学院大学の優勝、10月28日に36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会が開催され、名城大学の連覇、11月4日に第50回全日本大学駅伝対校選手権大会が開催され、見事に青山学院大学が優勝を飾りました。今年度の全日本大学駅伝は、前半を短く、後半を長くという中継所を変更しました。これで、1、2、3、4区では先頭が入れ替わるなどおもしろいレースになりました。またシード校を6から8に増やすことにより、シード権の獲得に熾烈な争いが繰り広げられました。第50回の記念大会を終え、第51回は新しい元号と歩むこととなります。12月30日には2018全日本大学女子選抜駅伝競走が、富士宮浅間神社から富士市陸上競技場のコースで開催されます。今年度も美しい富士山に出会えることを期待しています。

2019年は、我々の最大の目標であるユニバシアード大会がイタリア・ナポリで開催されます。前回の台北大会では参加国中1位のメダルを獲得しました。今回は大幅な派遣人数を期待していますが、選手村が大型客船ということで、前回11,000名のキャパが8,000人に減少します。先日、JOCに個別折衝に行ってきたばかりですが、あまり期待のできる話は聞けませんでした。それはさておき、平成30年3月10日には日本学生ハーフマラソン選手権大会、3月17日には日本学生20km競歩選手権大会、日本学生女子ハーフマラソン選手権大会が開催されます。この3大会はユニバシアード大会の選考会になります。一般種目については春のサーキットが選考対象になります。皆さんには意欲をもって、この冬をがんばっていただきたいと思います。

このように日本学連の事業計画を、皆様方からいろいろなお意見等をいただきながら、進展と向上を目指しながら進めているところです。(専務理事 永井 純)

「陸上競技研究」購読のご案内



第 115 号
2018, No.4
2018 年 12 月発行



公益社団法人 日本学生陸上競技連合は機関研究誌『陸上競技研究』を発行しています。
購読会員として入会ご希望の方は、年会費 (6,000 円) を下記へ郵便振替にてご送金ください。

口座記号番号 00190-4-142923

加入者名 (株)陸上競技社 陸上競技研究

通信欄に「何号から 1 年間」と必ず明記してください。

バックナンバーについては(株)陸上競技社 (TEL03-5215-8881) にお問い合わせください。